

富良野市立地適正化計画策定のための
アンケート調査

【集計結果報告書】

令和3年12月

目 次

1. アンケート調査の概要	1
1-1 目的	1
1-2 概要	1
2. 集計結果〔単純集計〕	2
2-1 回答者属性	2
(1) Q 1 性別	2
(2) Q 2 年齢	3
(3) Q 3 居住地区	4
(4) Q 4 居住年数（富良野市）	7
(5) Q 5 居住形態	8
2-2 富良野市での暮らし	9
(1) Q 6 自家用車の利用頻度	9
(2) Q 7 鉄道の利用頻度	10
(3) Q 8 バスの利用頻度	11
(4) Q 9 各施設の利用頻度	12
(5) Q10 地区・自宅周辺の便利さ	13
(6) Q11 歩行（可能）距離	14
(7) Q12 地区居住の意向	16
(8) Q13 転居場所の意向	17
2-3 富良野市のまちづくり	18
(1) Q14 各施設の必要性	18
(2) Q15 市街地のあり方	19
(3) Q16 転居の支援	20
(4) Q17 各移動手段の重要性	21
(5) Q18 災害に対する考え	23
(6) Q19 まちなかの空間整備に対する考え	24
3. 集計結果〔クロス集計〕	25
3-1 自宅周辺の便利さ	25
(1) Q10×Q 3 居住地区別〔自宅周辺の便利さ〕	25
3-2 歩行（可能）距離	27
(1) Q11×Q 2 年齢別〔歩行（可能）距離〕	27
3-3 居留意向	29
(1) Q12×Q 3 居住地区別〔居留意向〕	29
(2) Q16×Q 3 居住地区別〔転居の支援〕のうち「住み替えない」回答	30
3-4 災害に対する考え	31
(1) Q18×Q 3 居住地区別〔災害に対する考え〕	31
(2) Q18×Q 4 居住年数（富良野市）別〔災害に対する考え〕	32

（３） Q18×Q 5 居住形態別〔災害に対する考え〕	33
（４） Q19×Q 2 年齢別〔空間整備に対する考え〕	34
4. 自由記述の集計	35
4－1 富良野市のまちづくりについて	35
（１） Q20 自由意見〔カテゴリー区分と意見の要旨〕	35
（２） Q20 自由意見〔全文掲載〕	36
5. アンケート調査票.....	41

1. アンケート調査の概要

1-1 目的

立地適正化計画の策定に伴い、コンパクトなまちづくりに対する考え方や誘導区域、誘導施設及び誘導施策等を検討するにあたっての基礎資料とするため、住民の意向を把握するべくアンケート調査を実施しました。

1-2 概要

- 調査対象：富良野市の都市計画区域に居住する18歳以上の約1,000人
※年齢層ごとに人数が均等となるよう住民基本台帳から無作為に抽出
- 調査方法：郵送調査（郵送により調査票を配布・回収）
- 調査期間：令和3年7月21日（発送日）～令和3年8月4日（投函期限）
※投函期限を過ぎて回収された調査票も集計に含めた
- 回収状況：送付数 1,054人（うち宛先不明7人）
有効配布数 1,047人
回収数 344人
回収率 32.9%（344人/1,047人）
- 集計の留意点：集計結果から得られた構成比は、端数処理の影響によって合計が100.0%にならない場合があります。

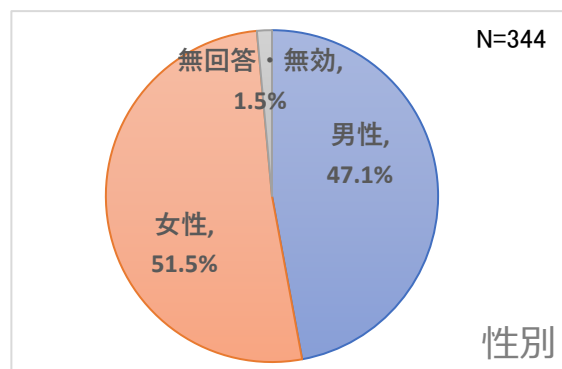
2. 集計結果 [単純集計]

2-1 回答者属性

設問（1）	はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。
-------	---------------------------

（1） Q 1 性別

性別	回答数	比率
男性	162	47.1%
女性	177	51.5%
無回答・無効	5	1.5%
N=	344	100.0%



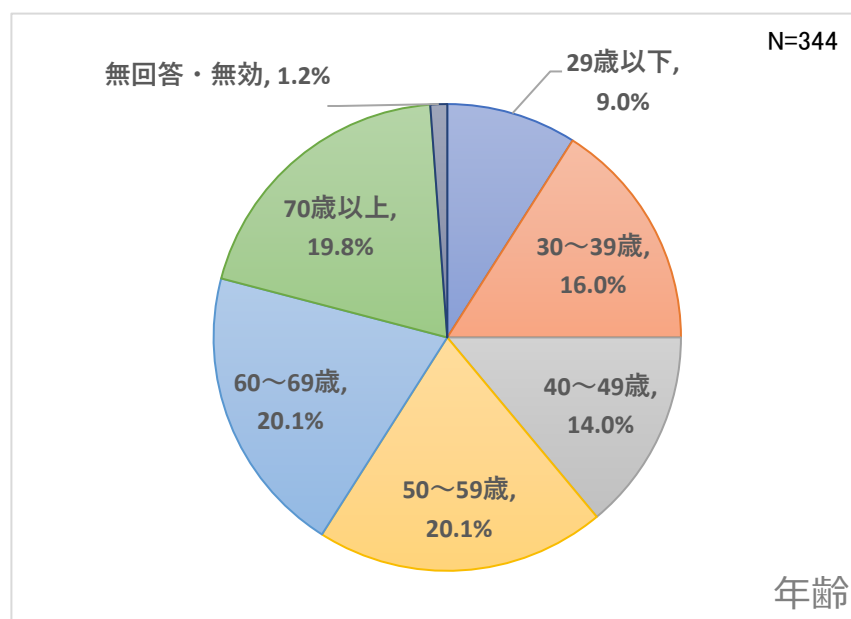
結果からわかること・関連事項 性別

- ・「男性」47.1%、「女性」51.5%の年齢構成で「女性」の構成比が若干高く、富良野市全体の構成比（男性47.1%、女性52.9%）とほぼ同様の結果となっています。

※20,921人のうち男性9,863人、女性11,058人（R3.3住基月報による）

(2) Q2 年齢

年齢	回答数	比率
29歳以下	31	9.0%
30～39歳	55	16.0%
40～49歳	48	14.0%
50～59歳	69	20.1%
60～69歳	69	20.1%
70歳以上	68	19.8%
無回答・無効	4	1.2%
N=	344	100.0%

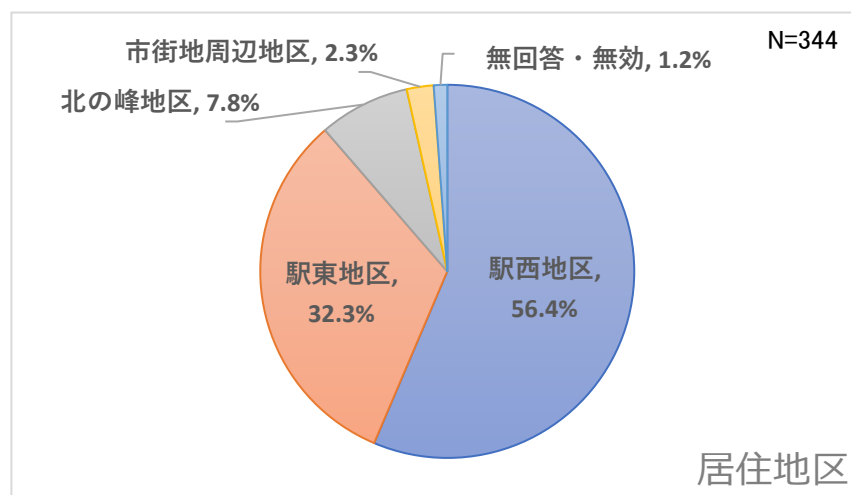


結果からわかること・関連事項 年齢

- アンケートの対象者を年齢層ごとに均等となるよう抽出した結果を受け、29歳以下が9.0%で少ないほかは、30歳代から70歳以上の各層でおよそ14～20%の構成比となっており、各世代でバランスの良い回答が得られています。

(3) Q3 居住地区

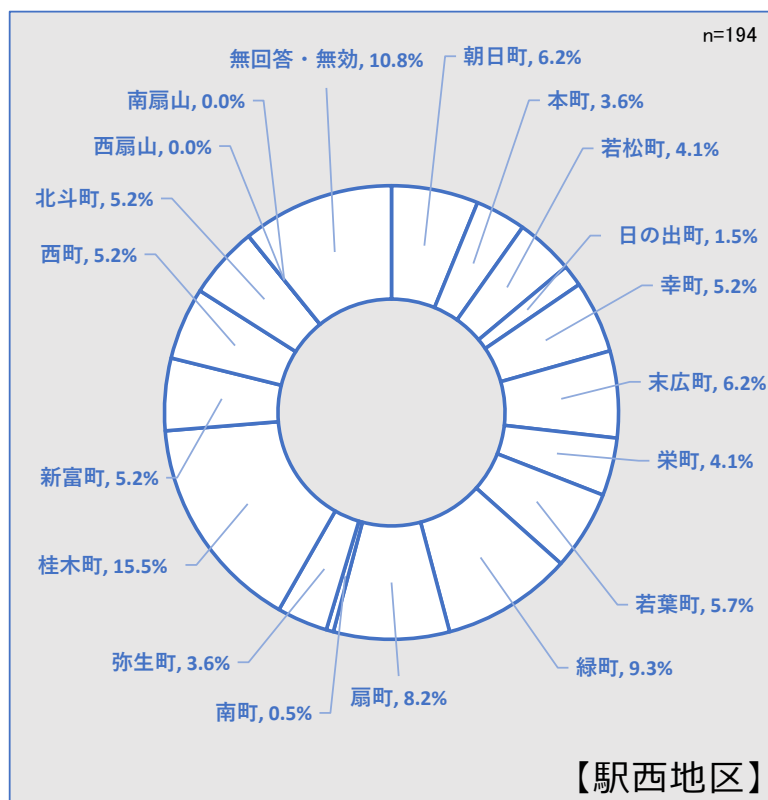
居住地区	回答数	比率
駅西地区	194	56.4%
駅東地区	111	32.3%
北の峰地区	27	7.8%
市街地周辺地区	8	2.3%
無回答・無効	4	1.2%
N=	344	100.0%



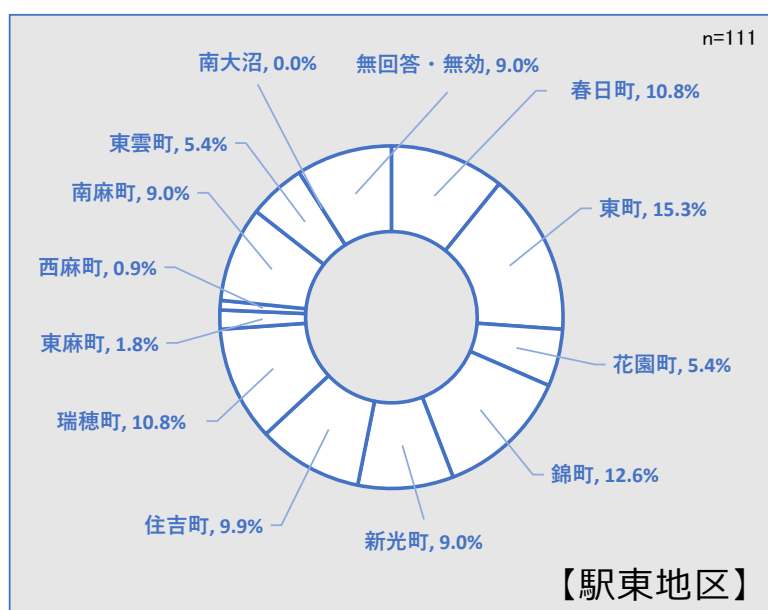
結果からわかること・関連事項 居住地区

- 駅西地区 56.4%、駅東地区 32.3%、合わせて 88.7%と 9 割が駅の東西地区に集中しており、次いで北の峰地区 7.8%、市街周辺地区 2.3%の居住状況です。
- 居住地に偏りがありますが、各地区の居住人口に応じたアンケートの配布となっているため、概ね実際の人口比率に準じた回答結果となっています。

地区詳細【駅西地区・駅東地区】

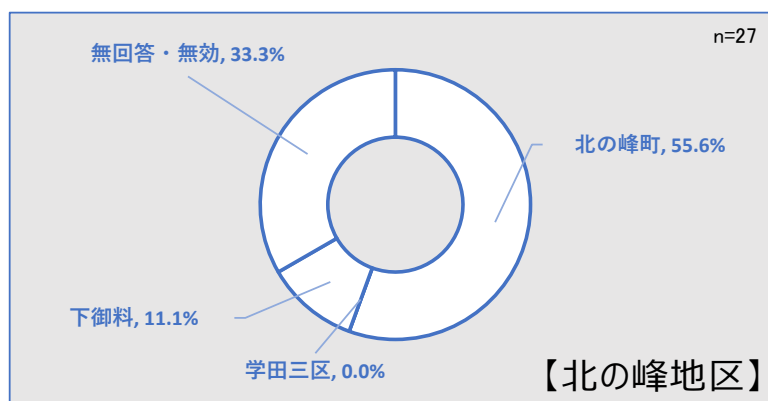


駅西地区の中では、特に
桂木町（15.5%）
緑町（9.3%）
扇町（8.2%）
で回答が多くなっています。

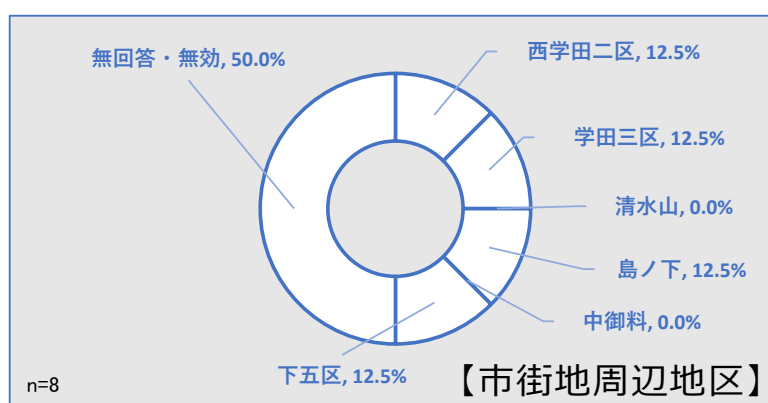


駅東地区の中では、特に
東町（15.3%）
錦町（12.6%）
春日町・瑞穂町（10.8%）
で回答が多くなっています。

地区詳細【北の峰地区・市街地周辺地区】



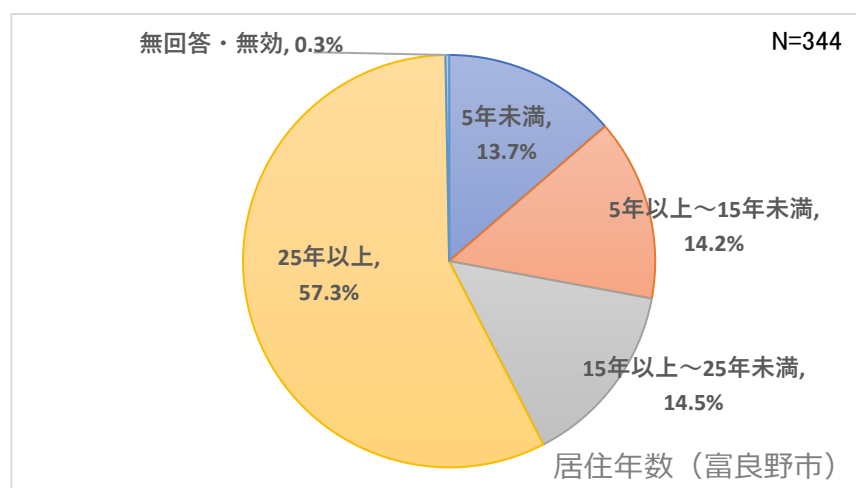
北の峰地区では、
北の峰町（55.6%）
で回答が多くなっています。



市街地周辺地区では、
西学田二区、学田三区、島ノ下、
下五区で各 1 名の回答があり
ました。

(4) Q 4 居住年数(富良野市)

居住年数(富良野市)	回答数	比率
5年未満	47	13.7%
5年以上～15年未満	49	14.2%
15年以上～25年未満	50	14.5%
25年以上	197	57.3%
無回答・無効	1	0.3%
N=	344	100.0%

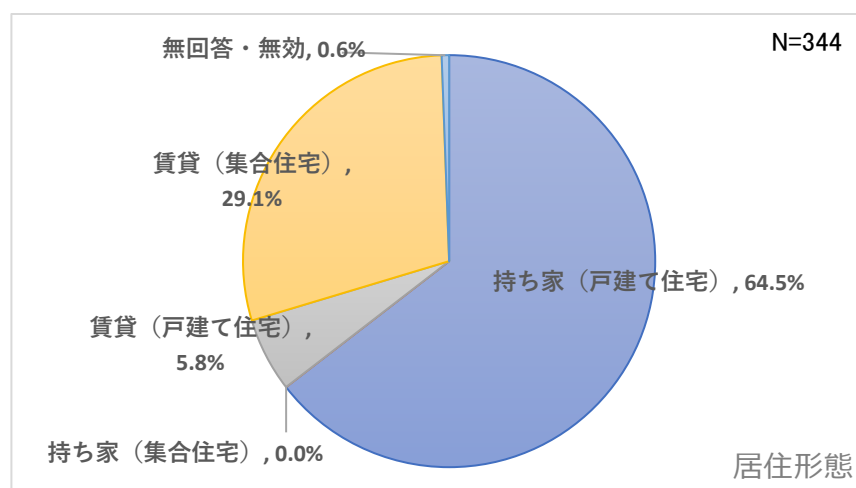


結果からわかること・関連事項 居住年数(富良野市)

- ・富良野市での居住年数は、25 年以上が 57.3%で大半を占めており、ほか 3 区分の居住年数は 13～15%の範囲でほぼ等しく、5 年未満の富良野市での暮らしが比較的浅い人も 1 割程度存在します。

(5) Q5 居住形態

居住形態	回答数	比率
持ち家(戸建て住宅)	222	64.5%
持ち家(集合住宅)	0	0.0%
賃貸(戸建て住宅)	20	5.8%
賃貸(集合住宅)	100	29.1%
無回答・無効	2	0.6%
N=	344	100.0%



結果からわかること・関連事項 居住形態

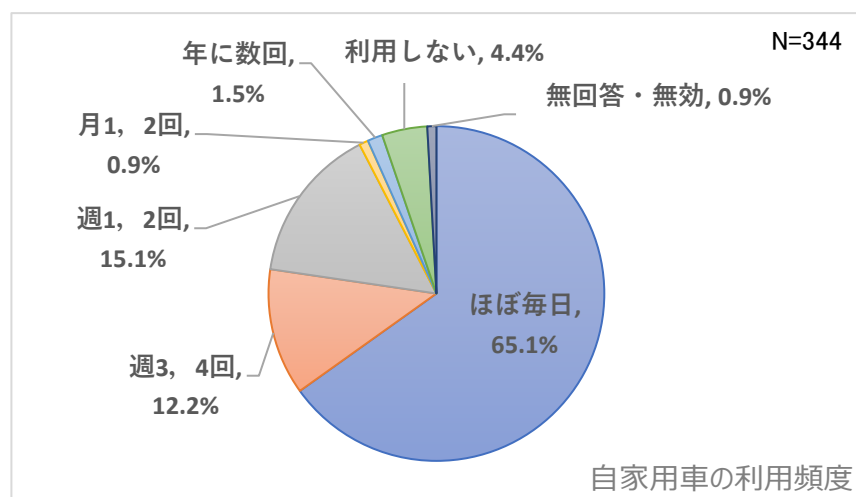
- ・持ち家(戸建て住宅)が64.5%で大半を占めており、次いで賃貸(集合住宅)が29.1%となっています。

2-2 富良野市での暮らし

設問（2）	普段の「暮らし」についてお伺いします。
-------	---------------------

（1） Q 6 自家用車の利用頻度

自家用車の利用頻度	回答数	比率
ほぼ毎日	224	65.1%
週3, 4回	42	12.2%
週1, 2回	52	15.1%
月1, 2回	3	0.9%
年に数回	5	1.5%
利用しない	15	4.4%
無回答・無効	3	0.9%
N=	344	100.0%

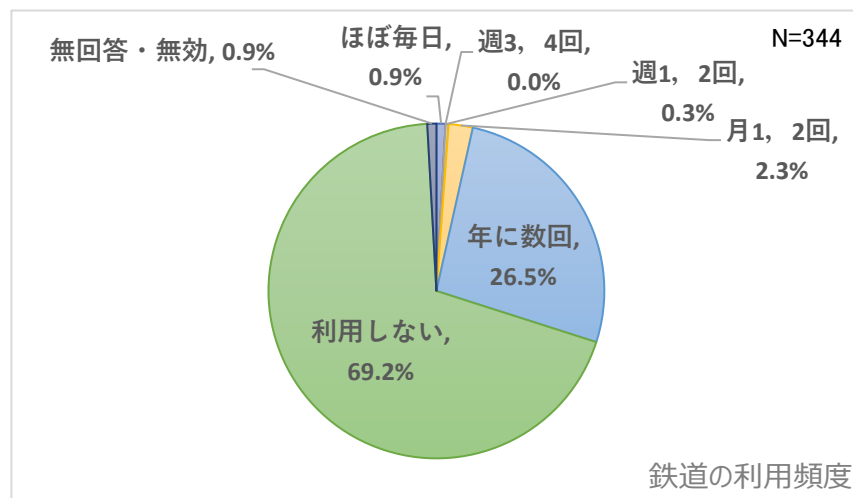


結果からわかること・関連事項 自家用車の利用頻度

- ・「ほぼ毎日」自家用車を利用する回答者が65.1%で大半を占め、「利用しない」は4.4%となっています。
- ・自動車を必要不可欠とする人が極めて多いと考えられ、生活に密着した存在であることが分かります。

(2) Q7 鉄道の利用頻度

鉄道の利用頻度	回答数	比率
ほぼ毎日	3	0.9%
週3, 4回	0	0.0%
週1, 2回	1	0.3%
月1, 2回	8	2.3%
年に数回	91	26.5%
利用しない	238	69.2%
無回答・無効	3	0.9%
N=	344	100.0%



結果からわかること・関連事項 鉄道の利用頻度

- ・鉄道を「利用しない」回答者が69.2%で大半を占めています。
- ・富良野駅を中心に市街地が形成されているものの、鉄道の利用状況は極めて低く、自動車と対照的な結果といえます。(本アンケートは18歳以上を対象としているため、通学利用は反映できていません。)

■関連事項) 全路線の線区が、JR 北海道の維持困難線区※となっています。

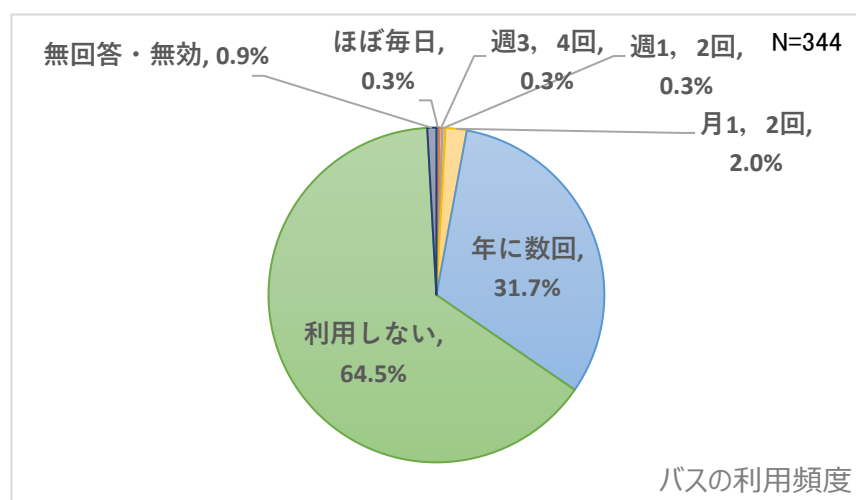
※H28年11月公表資料(①輸送密度200人未満の線区、②同200~2000人)

①富良野-新得間(根室本線)、②富良野-滝川間(根室本線)・富良野-旭川間(富良野線)

※R3年7・8月「根室本線対策協議会」鉄路存続の検討・新たな交通体系等について協議

(3) Q 8 バスの利用頻度

バスの利用頻度	回答数	比率
ほぼ毎日	1	0.3%
週3, 4回	1	0.3%
週1, 2回	1	0.3%
月1, 2回	7	2.0%
年に数回	109	31.7%
利用しない	222	64.5%
無回答・無効	3	0.9%
N=	344	100.0%

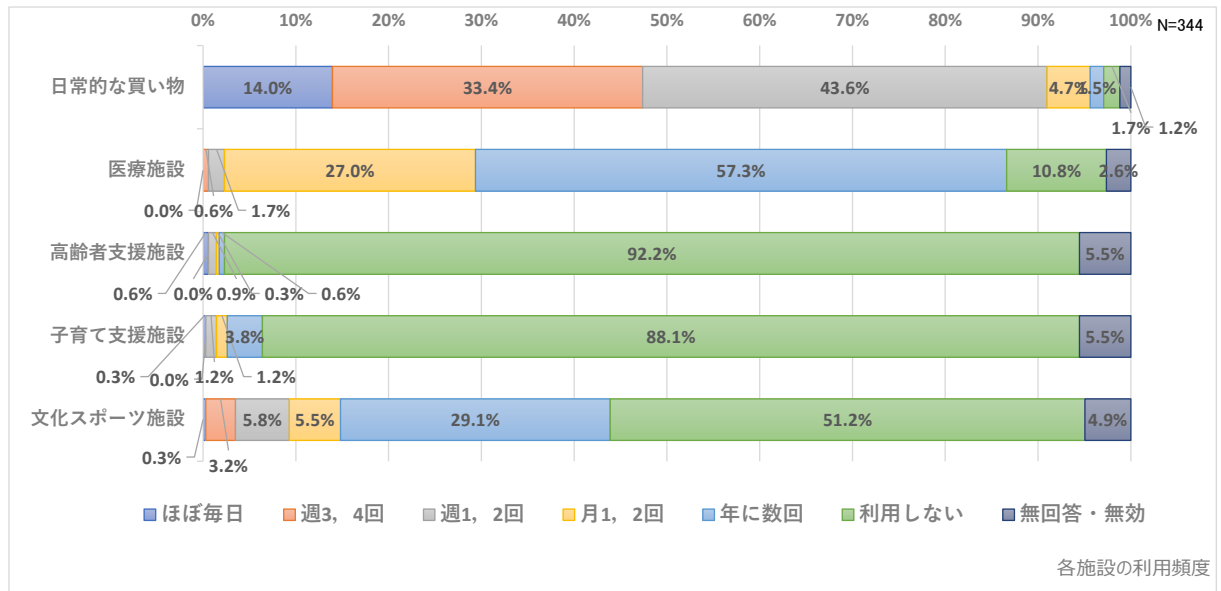


結果からわかること・関連事項 バスの利用頻度

- ・バスを「利用しない」回答者が 64.5% で大半を占めています。
- ・鉄道利用とほぼ同様の傾向となっており、鉄道・バスともに「利用しない」が 6 割超えに対し、自動車を「ほぼ毎日」利用が 6 割超えであることから、自動車への顕著な依存傾向がうかがえます。

(4) Q9 各施設の利用頻度

各施設の利用頻度	ほぼ毎日	週3, 4回	週1, 2回	月1, 2回	年に数回	利用しない	無回答・無効
日常的な買い物	14.0%	33.4%	43.6%	4.7%	1.5%	1.7%	1.2%
医療施設	0.0%	0.6%	1.7%	27.0%	57.3%	10.8%	2.6%
高齢者支援施設	0.6%	0.0%	0.9%	0.3%	0.6%	92.2%	5.5%
子育て支援施設	0.3%	0.0%	1.2%	1.2%	3.8%	88.1%	5.5%
文化スポーツ施設	0.3%	3.2%	5.8%	5.5%	29.1%	51.2%	4.9%

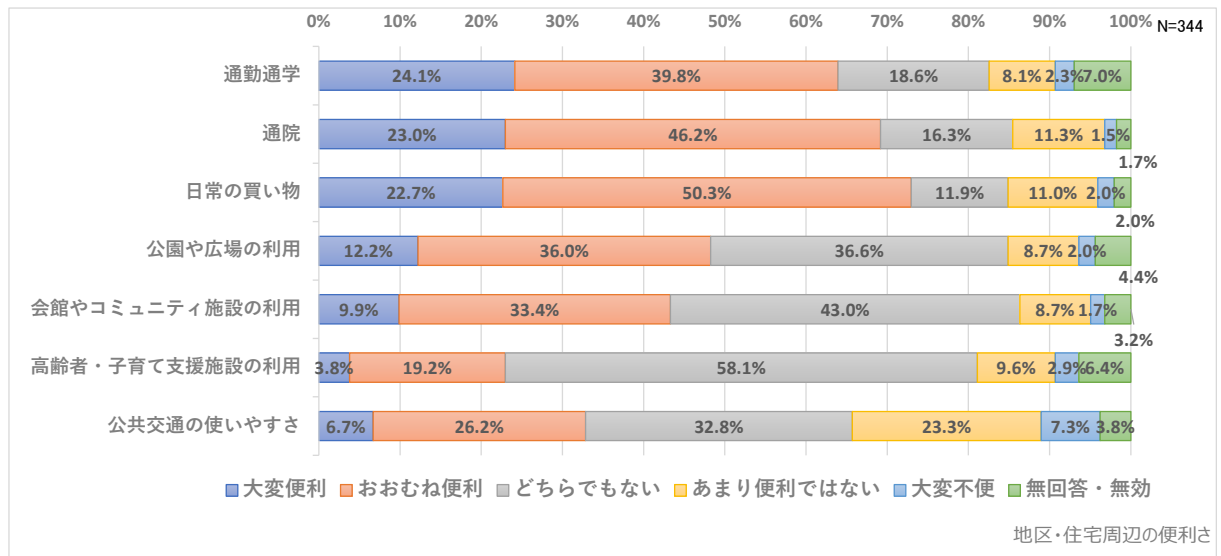


結果からわかること・関連事項 各施設の利用頻度

- ・日常的な買い物は週 1～2 回（43.6%）が多く、医療施設は年に数回（57.3%）の利用が多くなっています。
- ・利用者が限定される高齢者施設・子育て施設は、多くが利用しない（92.2%・88.1%）現状にあり、文化スポーツ施設は、年に数回（29.1%）の利用があるものの、利用しない（51.2%）回答者が多くを占めています。

(5) Q10 地区・自宅周辺の便利さ

地区・住宅周辺の便利さ	大変便利	おおむね便利	どちらでもない	あまり便利ではない	大変不便	無回答・無効
通勤通学	24.1%	39.8%	18.6%	8.1%	2.3%	7.0%
通院	23.0%	46.2%	16.3%	11.3%	1.5%	1.7%
日常の買い物	22.7%	50.3%	11.9%	11.0%	2.0%	2.0%
公園や広場の利用	12.2%	36.0%	36.6%	8.7%	2.0%	4.4%
会館やコミュニティ施設の利用	9.9%	33.4%	43.0%	8.7%	1.7%	3.2%
高齢者・子育て支援施設の利用	3.8%	19.2%	58.1%	9.6%	2.9%	6.4%
公共交通の使いやすさ	6.7%	26.2%	32.8%	23.3%	7.3%	3.8%

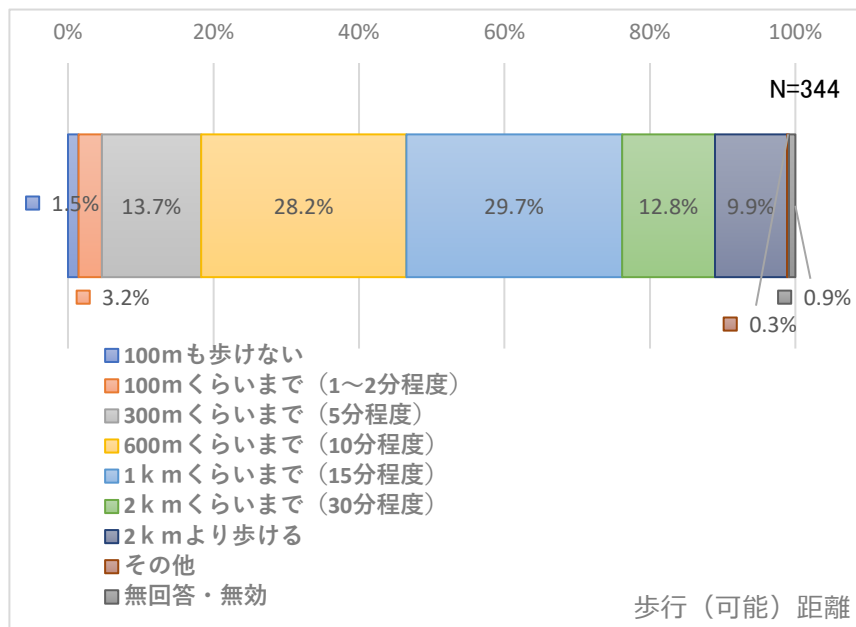


結果からわかること・関連事項 地区・住宅周辺の便利さ

- ・便利（大変便利・おおむね便利）と感じている回答者が、通勤通学で 63.9%、通院 69.2%、日常の買い物 73.0%、公園・広場の利用 48.2%となっています。
- ・会館やコミュニティ施設、高齢者や子育て支援施設は、どちらでもないが 43.0%、58.1%と最も多く、公共交通では、不便（あまり便利ではない・大変不便）が 30.6%と全項目中で最も多い結果となっています。

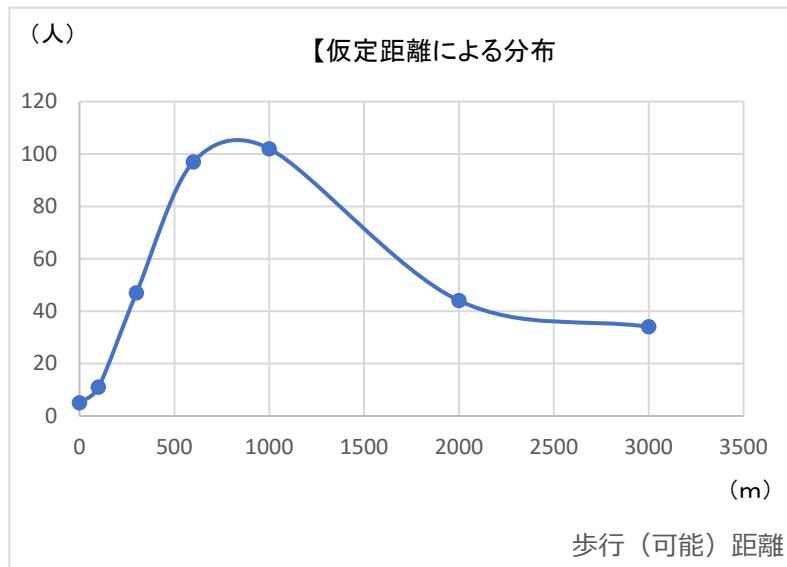
(6) Q11 歩行(可能)距離

歩行(可能)距離	回答数	比率
100mも歩けない	5	1.5%
100mくらいまで(1~2分程度)	11	3.2%
300mくらいまで(5分程度)	47	13.7%
600mくらいまで(10分程度)	97	28.2%
1kmくらいまで(15分程度)	102	29.7%
2kmくらいまで(30分程度)	44	12.8%
2kmより歩ける	34	9.9%
その他	1	0.3%
無回答・無効	3	0.9%
N=	344	100.0%



仮定距離による分布

歩行(可能)距離	(m)	(人)
	仮定距離	回答数
100mも歩けない	0	5
100mくらいまで(1~2分程度)	100	11
300mくらいまで(5分程度)	300	47
600mくらいまで(10分程度)	600	97
1kmくらいまで(15分程度)	1000	102
2kmくらいまで(30分程度)	2000	44
2kmより歩ける	3000	34
$\Sigma =$		340



結果からわかること・関連事項 歩行（可能）距離

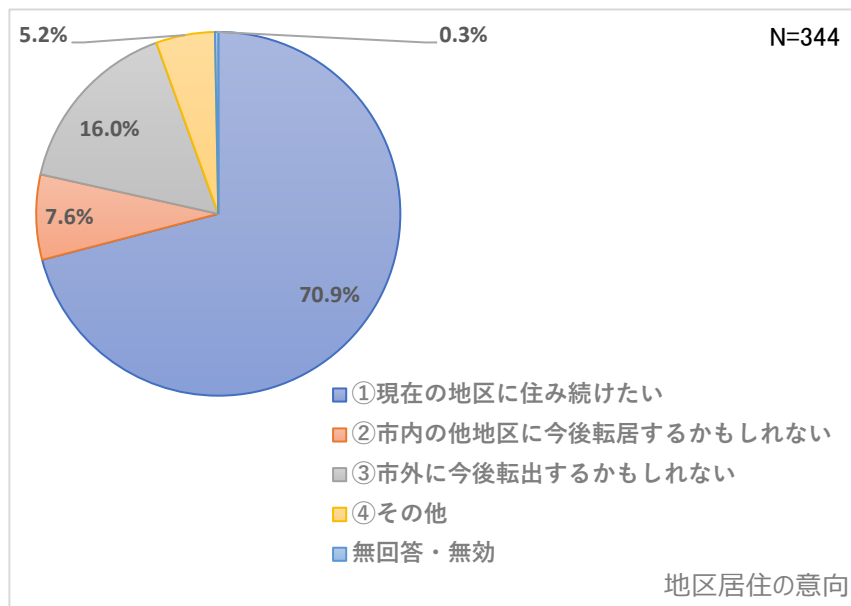
- 1 kmくらいまで（15 分程度）歩ける回答者が 29.7%と最も多く、次いで 600mくらいまで（10 分程度）28.2%となっており、分布の中心が 600m～1 km付近にあります。
- 「1 kmくらいまで」から「2 kmより歩ける」の合計が 52.4%であることから、半数の回答者が 1 kmであれば歩くことが可能と考えています。
- 仮定距離による分布では、0m～「600mくらいまで（10 分程度）」で急な増加傾向を示し、「1 kmくらいまで（15 分程度）」の手前付近に分布のピークがみられ、以降は、距離の増大に応じてなだらかな低減傾向を示しています。

■関連事項）一般的な徒歩圏：半径 800m、高齢者徒歩圏：半径 500m※

※H26.8 国交省「都市構造の評価に関するハンドブック」より

(7) Q12 地区居住の意向

地区居住の意向	回答数	比率
①現在の地区に住み続けたい	244	70.9%
②市内の他地区に今後転居するかもしれない	26	7.6%
③市外に今後転出するかもしれない	55	16.0%
④その他	18	5.2%
無回答・無効	1	0.3%
N=	344	100.0%



結果からわかること・関連事項 地区居住の意向

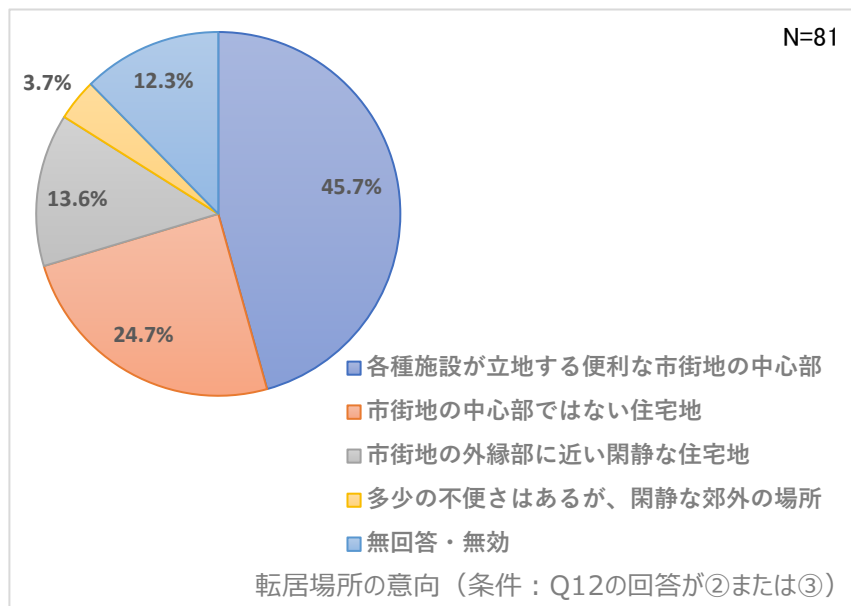
- ・「定住の意向」が70.9%で最も高く、次いで「市外転出の意向」16.0%、「市内転居の意向」7.6%となっています。
- ・現在の地区での居住継続が大多数を占める一方で、約 1/4 の人が転居・転出を検討しており、市内転居を検討する人に対しては、個々の生活スタイルに合わせた住まい方が選択できるよう多様な住宅の供給が求められます。

Q12 その他の記述〔内容の区分／回答数〕 n=14

転居意向／1、転出意向／3、転居・転出意向／2、職場事情（転勤）／2、居住地区の問題／2、意向保留／4

(8) Q13 転居場所の意向

転居場所の意向(条件:Q12の回答が②または③)	回答数	比率
各種施設が立地する便利な市街地の中心部	37	45.7%
市街地の中心部ではない住宅地	20	24.7%
市街地の外縁部に近い閑静な住宅地	11	13.6%
多少の不便さはあるが、閑静な郊外の場所	3	3.7%
無回答・無効	10	12.3%
N=	81	100.0%



結果からわかること・関連事項 転居場所の意向

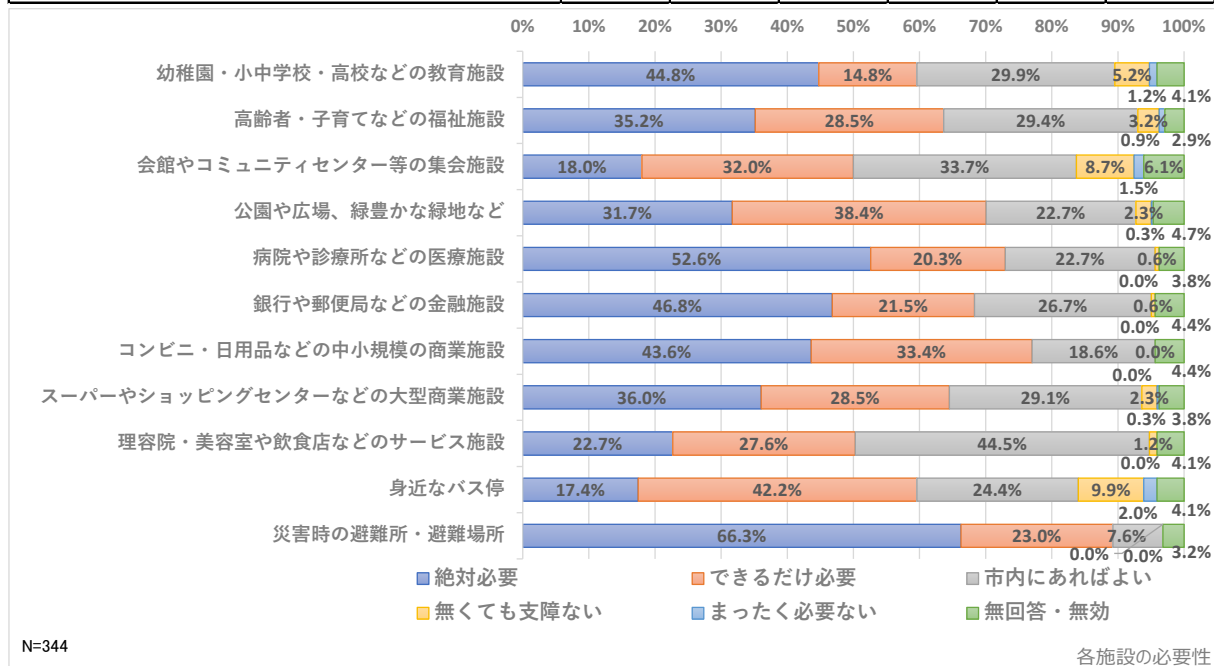
- ・転居場所の意向として「市街地中心部」が45.7%で最も高く、次いで「中心部ではない住宅地」24.7%、「市街外縁・閑静な住宅地」13.6%となっています。
- ・利便性の高さが転居にあたって重要視されており、半数近くの回答者が市街地中心部を転居先の候補として捉えています。

2-3 富良野市のまちづくり

設問（3）	今後の「まちづくり」について、Q14～Q19 をお答えください。
-------	----------------------------------

（1） Q14 各施設の必要性

各施設の必要性	絶対必要	できるだけ必要	市内にあればよい	無くても支障ない	まったく必要ない	無回答・無効
幼稚園・小中学校・高校などの教育施設	44.8%	14.8%	29.9%	5.2%	1.2%	4.1%
高齢者・子育てなどの福祉施設	35.2%	28.5%	29.4%	3.2%	0.9%	2.9%
会館やコミュニティセンター等の集会施設	18.0%	32.0%	33.7%	8.7%	1.5%	6.1%
公園や広場、緑豊かな緑地など	31.7%	38.4%	22.7%	2.3%	0.3%	4.7%
病院や診療所などの医療施設	52.6%	20.3%	22.7%	0.6%	0.0%	3.8%
銀行や郵便局などの金融施設	46.8%	21.5%	26.7%	0.6%	0.0%	4.4%
コンビニ・日用品などの中小規模の商業施設	43.6%	33.4%	18.6%	0.0%	0.0%	4.4%
スーパーやショッピングセンターなどの大型商業施設	36.0%	28.5%	29.1%	2.3%	0.3%	3.8%
理容院・美容室や飲食店などのサービス施設	22.7%	27.6%	44.5%	1.2%	0.0%	4.1%
身近なバス停	17.4%	42.2%	24.4%	9.9%	2.0%	4.1%
災害時の避難所・避難場所	66.3%	23.0%	7.6%	0.0%	0.0%	3.2%

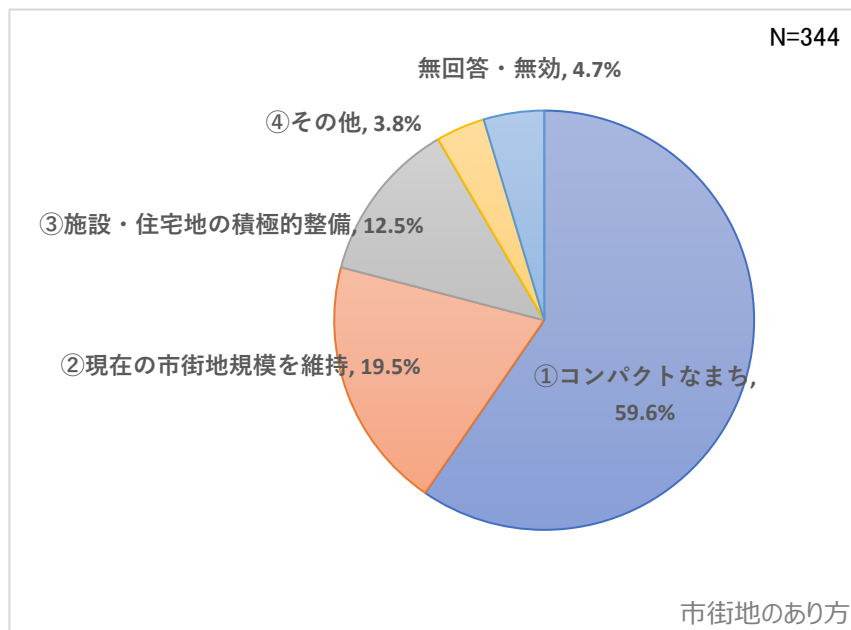


結果からわかること・関連事項 各施設の必要性

- 必要（絶対必要・できるだけ必要）と感じている回答者が多い施設は、避難場所 89.3%、中小規模の商業施設 77.0%、医療施設 72.9%、公園・緑地等 70.1%、金融施設 68.3%の順となっています。
- 対して必要と感じている回答者が少ない施設は、集会施設 50.0%、理容院・飲食店 50.3%、バス停 59.6%、教育施設 59.6%、福祉施設 63.7%となっています。
- 避難場所の必要性が最も高く、防災意識の高さがうかがえます。
- コロナ禍に伴い必要性が見直されつつある公園・緑地が上位についています。

(2) Q15 市街地のあり方

市街地のあり方	回答数	比率
①歩いて暮らせる生活しやすい市街地を目指し、地域の状況に合わせたコンパクトなまち	205	59.6%
②一人当たりの費用負担が増加しても現在の市街地規模を維持し、人口減少により発生した空き家・空き地を有効活用できるまち	67	19.5%
③市街地の規模や構造にこだわらず、集客性の高い施設や定住促進のための新たな住宅地を積極的に整備していくまち	43	12.5%
④その他	13	3.8%
無回答・無効	16	4.7%
N=	344	100.0%



結果からわかること・関連事項 市街地のあり方

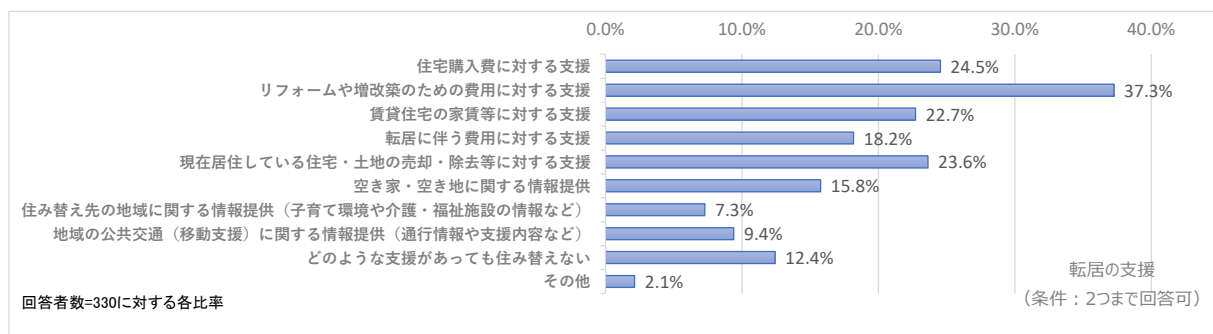
- ・歩いて暮らせる生活しやすい市街地を目指す「コンパクトなまち」が59.6%で、次いで「市街地規模を維持」19.5%、「施設・住宅地の整備」12.5%となっています。
- ・6割の回答者が、暮らしやすい生活のために「コンパクトなまち」が必要と捉えており、人口減少を見据えた判断と考えられます。
- ・一方で、「市街地規模を維持」や「施設・住宅地整備」も一定数みられることから、コンパクトを前提としたうえで、他の選択肢の要素（空き家、空き地の有効活用や集客性、定住促進）を複合した取り組みの検討が求められます。

Q15 その他の記述〔内容の区分／回答数〕 n=11

施策全般／4、移動手段の充実／3、子育て・教育／2、地域コミュニティ／2

(3) Q16 転居の支援

転居の支援 (条件:2つまで回答可)	回答数	比率
住宅購入費に対する支援	81	24.5%
リフォームや増改築のための費用に対する支援	123	37.3%
賃貸住宅の家賃等に対する支援	75	22.7%
転居に伴う費用に対する支援	60	18.2%
現在居住している住宅・土地の売却・除去等に対する支援	78	23.6%
空き家・空き地に関する情報提供	52	15.8%
住み替え先の地域に関する情報提供(子育て環境や介護・福祉施設の情報など)	24	7.3%
地域の公共交通(移動支援)に関する情報提供(通行情報や支援内容など)	31	9.4%
どのような支援があっても住み替えない	41	12.4%
その他	7	2.1%



結果からわかること・関連事項 転居の支援

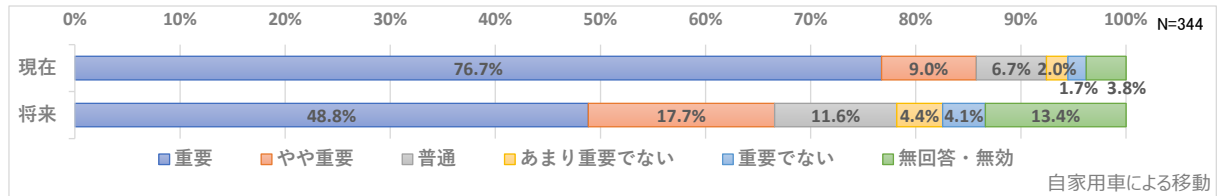
- ・増改築費の支援が37.3%で最も多く、次いで住宅購入費の支援24.5%、土地売却・除去等の支援23.6%、家賃等の支援22.7%となっています。
- ・一方で、「どのような支援があっても住み替えない」とする回答が12.4%となっています。
- ・持ち家としての支援に限らず、賃貸の費用支援、現有資産の処分など、多様な支援が求められています。

Q16 その他の記述〔内容の区分/回答数〕 n=7

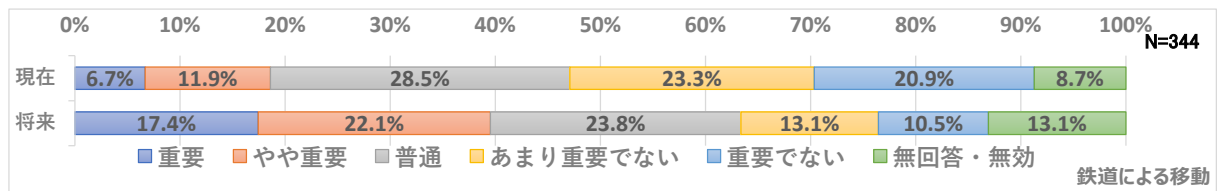
空き家対策、除雪対策、地域コミュニティ、雇用の充実、福祉施設の充実、引っ越しの支援、財源の問題/各1

(4) Q17 各移動手段の重要性

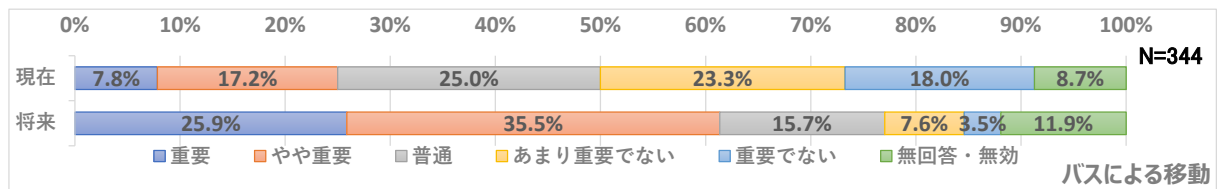
自家用車による移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	76.7%	9.0%	6.7%	2.0%	1.7%	3.8%
将来	48.8%	17.7%	11.6%	4.4%	4.1%	13.4%



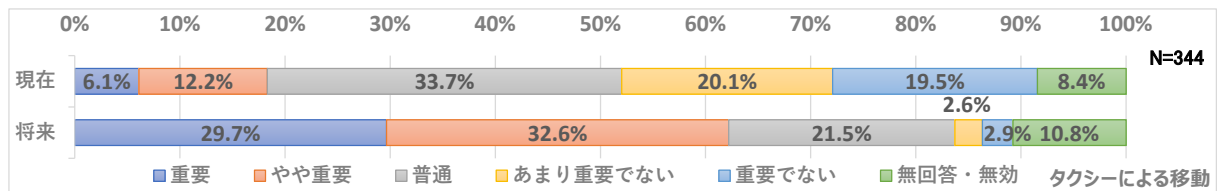
鉄道による移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	6.7%	11.9%	28.5%	23.3%	20.9%	8.7%
将来	17.4%	22.1%	23.8%	13.1%	10.5%	13.1%



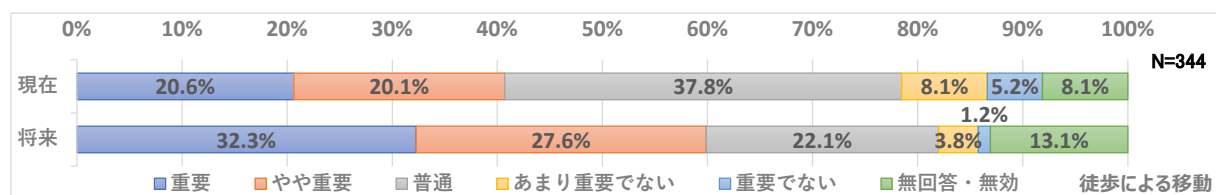
バスによる移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	7.8%	17.2%	25.0%	23.3%	18.0%	8.7%
将来	25.9%	35.5%	15.7%	7.6%	3.5%	11.9%



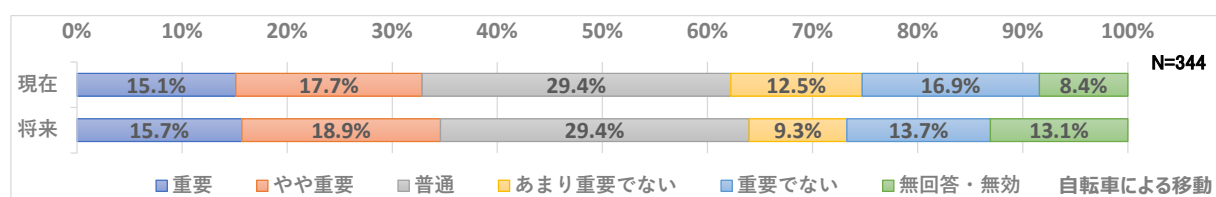
タクシーによる移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	6.1%	12.2%	33.7%	20.1%	19.5%	8.4%
将来	29.7%	32.6%	21.5%	2.6%	2.9%	10.8%



徒歩による移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	20.6%	20.1%	37.8%	8.1%	5.2%	8.1%
将来	32.3%	27.6%	22.1%	3.8%	1.2%	13.1%



自転車による移動	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	無回答・無効
現在	15.1%	17.7%	29.4%	12.5%	16.9%	8.4%
将来	15.7%	18.9%	29.4%	9.3%	13.7%	13.1%

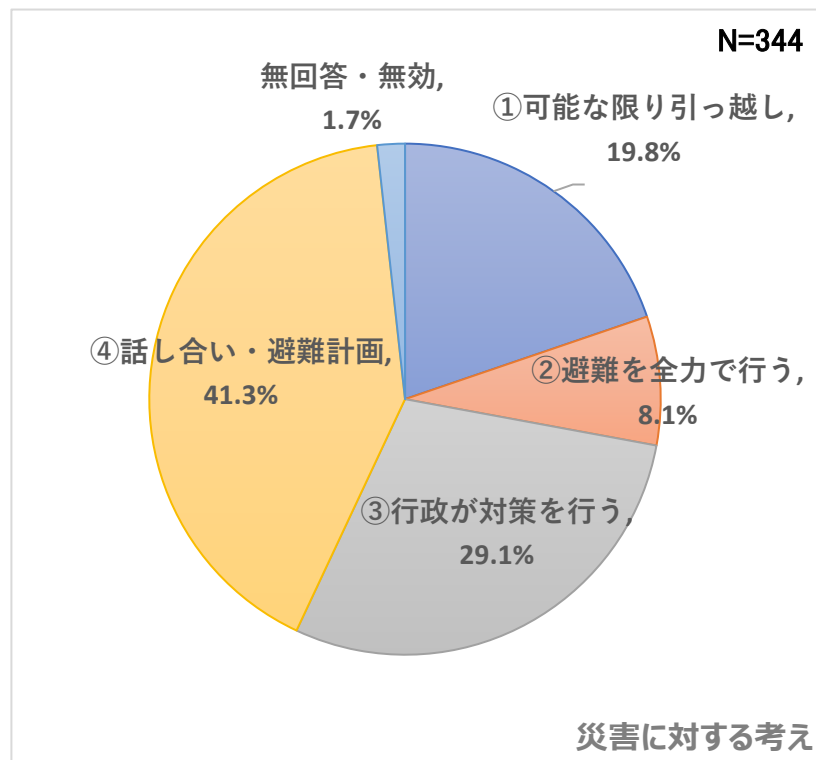


結果からわかること・関連事項 各移動手段の重要性

- 現在の移動手段として重要性（重要・やや重要）は、自家用車が85.7%と顕著に高い割合を示しています。
- 将来の重要性では、自家用車が66.5%に減じるのに対し、鉄道 18.6→39.5%、バス 25.0→61.4%、タクシー 18.3→62.3%、徒歩 40.7→59.9%と、特にバスやタクシーの重要性が大きく伸びています。
- 自身が高齢になることで、現在のように自家用車を使った移動からシフトしていくことを想定した傾向がうかがえ、公共交通の果たす役割とともに歩いて暮らせるまちづくりの重要性が一層高まるものとみられます。

(5) Q18 災害に対する考え

災害に対する考え	回答数	比率
①災害の危険性があるなら、安全なほかの地域に可能な限り引っ越した方がよいと思う	68	19.8%
②引っ越しは難しいため、自宅は見捨てることになっても避難を全力で行うべきだと思う	28	8.1%
③引っ越しは難しいため、引っ越さなくても良いう行政が対策を行う必要があると思う	100	29.1%
④引っ越しは難しいため、災害に備えて地域で話し合い、事前に避難計画などを考えた方がよいとおもう	142	41.3%
無回答・無効	6	1.7%
N=	344	100.0%

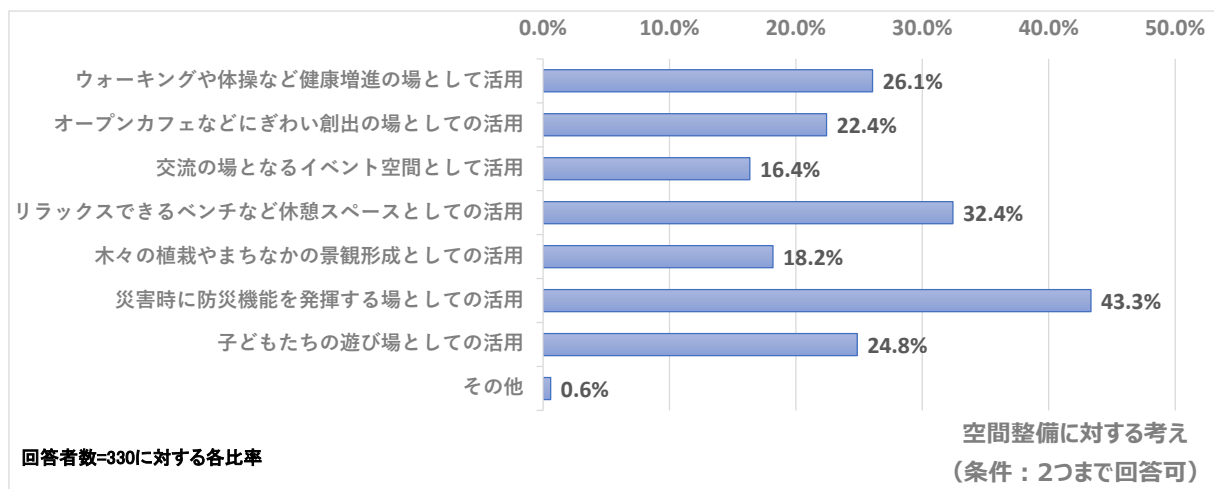


結果からわかること・関連事項 災害に対する考え

- ・引っ越しによらない「話し合い・避難計画」が41.3%と最も多く、次いで「行政が対策を行う」29.1%、「可能な限り引っ越し」19.8%となっています。
- ・災害の危険性がある土地であっても、引っ越しは容易ではないとの考えが強いとみられ、引っ越しによらない対策を行う意見が8割を占めています。

(6) Q19 まちなかの空間整備に対する考え

空間整備に対する考え (条件:2つまで回答可)	回答数	比率
ウォーキングや体操など健康増進の場として活用	86	26.1%
オープンカフェなどにぎわい創出の場としての活用	74	22.4%
交流の場となるイベント空間として活用	54	16.4%
リラックスできるベンチなど休憩スペースとしての活用	107	32.4%
木々の植栽やまちなかの景観形成としての活用	60	18.2%
災害時に防災機能を発揮する場としての活用	143	43.3%
子どもたちの遊び場としての活用	82	24.8%
その他	2	0.6%



結果からわかること・関連事項 空間整備に対する考え

- ・「防災機能を発揮する場」が43.3%と最も多く、次いで「休憩スペース」32.4%、「健康増進の場」26.1%となっています。
- ・暮らしの安全を優先する傾向がみられ、市民の防災意識やコロナ禍を背景とした回答が多くなっています。

Q19 その他の記述〔要点（回答者の特定等回避）〕 n=1

子供の遊び場・高齢者の運動スペース（憩いの場を含む）

3. 集計結果 [クロス集計]

3-1 自宅周辺の便利さ

(1) Q10×Q3 居住地区別 [自宅周辺の便利さ]

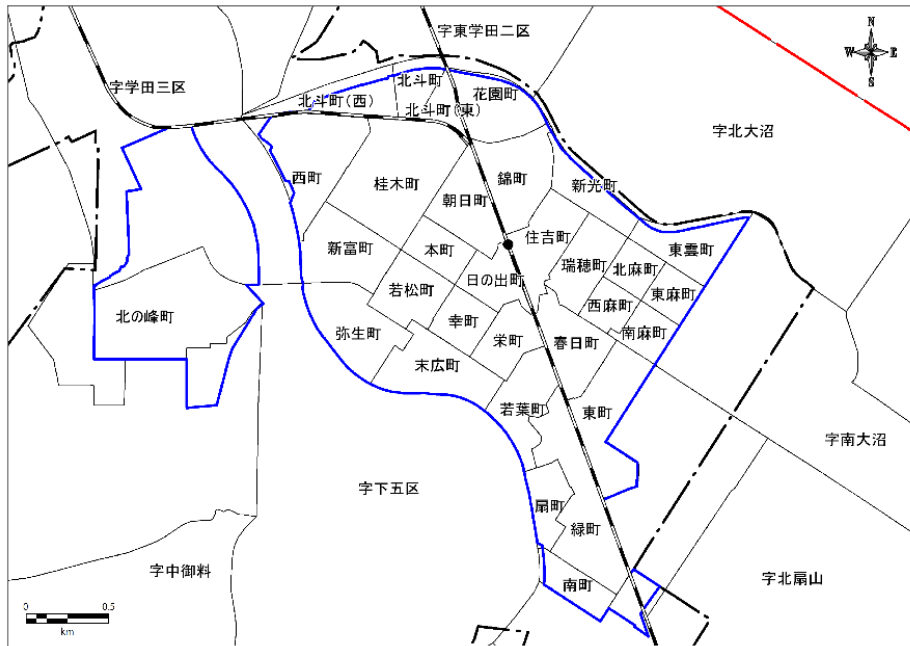
【設問項目】

- ①通勤通学、②通院
- ③日常の買い物：買い物
- ④公園や広場の利用：公園・広場
- ⑤会館やコミュニティ施設の利用：会館等
- ⑥高齢者・子育て支援施設の利用：支援施設
- ⑦公共交通の使いやすさ：公共交通

自宅周辺の便利さについて、回答者の居住地に着目し整理しました。以下、5名以上回答のあった地区のうち、全体の回答結果と比較して、「便利」の比率が高い結果となった地区を示します。

地区・住宅周辺の便利さ		通勤・通学	通院	買い物	公園・広場	会館等	支援施設	公共交通
全	便利（大変便利・概ね便利）	64.0%	69.2%	73.0%	48.3%	43.3%	23.0%	32.8%
居住地区別	全体の比率よりも高い地区（高い順）	若葉町 100.0%	住吉町 100.0%	朝日町 100.0%	北斗町 80.0%	住吉町 72.7%	弥生町 57.1%	東麻町 100.0%
		弥生町 100.0%	錦町 92.9%	幸町 100.0%	南麻町 70.0%	西町 70.0%	住吉町 45.5%	弥生町 71.4%
		西町 90.0%	朝日町 91.7%	末広町 100.0%	北の峰町 66.7%	新光町 70.0%	本町 42.9%	朝日町 58.3%
		栄町 87.5%	瑞穂町 91.7%	若葉町 100.0%	錦町 64.3%	南麻町 70.0%	錦町 35.7%	瑞穂町 58.3%
		本町 85.7%	栄町 87.5%	新富町 100.0%	若葉町 63.6%	朝日町 58.3%	朝日町 33.3%	本町 57.1%
		幸町 80.0%	弥生町 85.7%	春日町 100.0%	新光町 60.0%	弥生町 57.1%	瑞穂町 33.3%	住吉町 54.5%
		新光町 80.0%	東町 82.4%	若松町 87.5%	朝日町 58.3%	末広町 50.0%	新光町 30.0%	幸町 50.0%
		桂木町 76.7%	幸町 80.0%	栄町 87.5%	末広町 58.3%	緑町 50.0%	新富町 30.0%	若葉町 45.5%
		朝日町 75.0%	新富町 80.0%	弥生町 85.7%	春日町 58.3%	桂木町 46.7%	緑町 27.8%	西町 40.0%
		若松町 75.0%	新光町 80.0%	住吉町 81.8%	瑞穂町 58.3%	扇町 43.8%	若葉町 27.3%	南麻町 40.0%
		新富町 70.0%	若松町 75.0%	東町 76.5%	弥生町 57.1%	春日町 50.0%	東町 29.4%	栄町 37.5%
		扇町 68.8%	春日町 75.0%	扇町 75.0%	東町 52.9%	東町 52.9%	春日町 25.0%	桂木町 36.7%
		末広町 66.7%	若葉町 72.7%	桂木町 73.3%	栄町 50.0%	花園町 50.0%		錦町 35.7%
		瑞穂町 66.7%	桂木町 73.3%		緑町 50.0%	錦町 50.0%		春日町 33.3%
		花園町 66.7%	西町 70.0%			瑞穂町 50.0%		

すべての項目が全体を上回っている地区
1項目を除き全体を上回っている地区



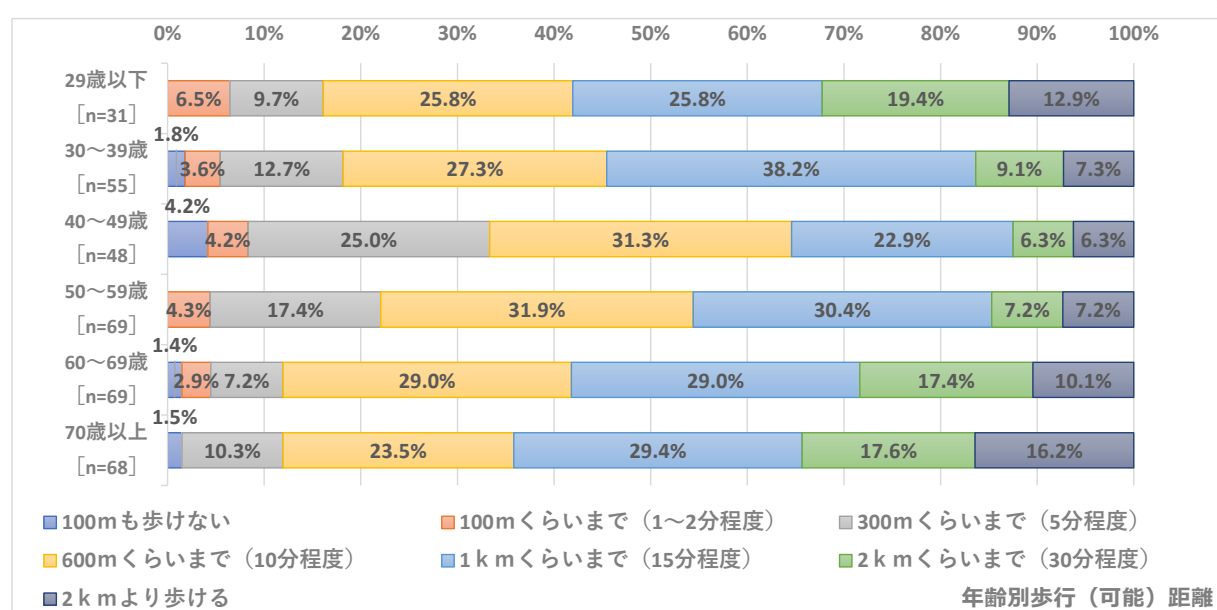
結果からわかること・関連事項 居住地別〔住宅周辺の便利さ〕

- 通勤では、若葉町、弥生町、西町で90%以上が便利と評価しています。
- 通院では、住吉町、錦町、朝日町、瑞穂町で90%以上が便利と評価しており、富良野協会病院に近いことの影響と推測されます。
- 買い物では、朝日町、幸町、末広町、若葉町、新富町、春日町で回答者の全員が便利と評価しており、大型の商業施設が近いことの影響と推測されます。
- 公園・広場では、北斗町、南麻町で70%以上が便利と評価しています。
- 会館等では、住吉町、西町、新光町、南麻町で70%以上が便利と評価しています。
- 高齢者・子育て支援施設では、弥生町で50%以上が便利と評価しています。
- 公共交通では、東麻町、弥生町で70%以上が便利と評価しています。
- 弥生町、朝日町については、すべての項目で全体の比率を上回っており、居住者にとって比較的利便性の高い地域と評価されている状況です。

3-2 歩行（可能）距離

(1) Q11×Q2 年齢別〔歩行（可能）距離〕

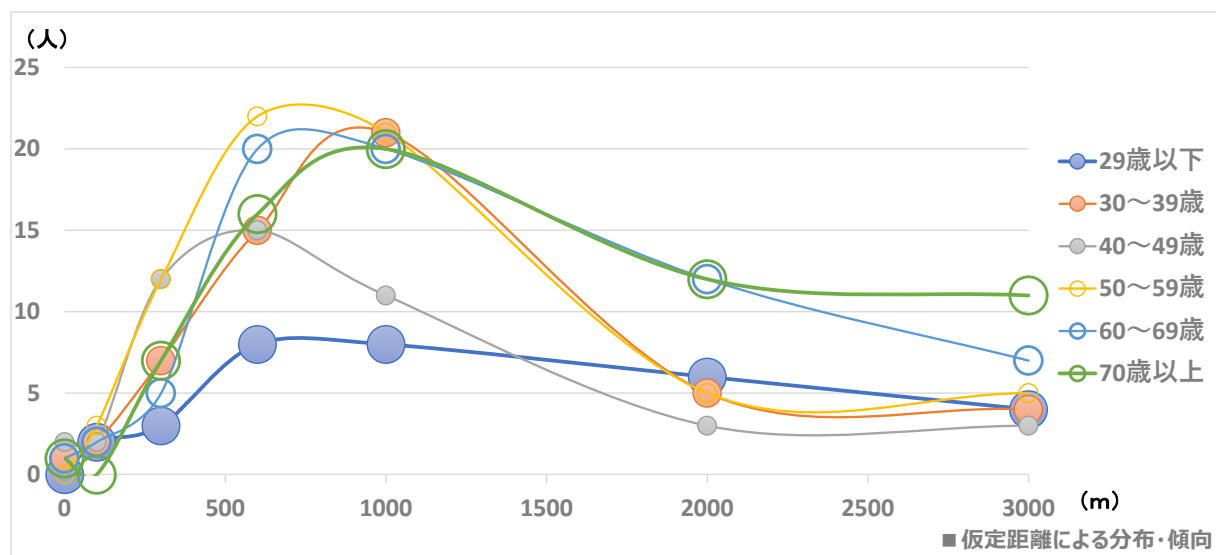
年齢別歩行（可能）距離	29歳以下 [n=31]	30～39歳 [n=55]	40～49歳 [n=48]	50～59歳 [n=69]	60～69歳 [n=69]	70歳以上 [n=68]
100mも歩けない	0.0%	1.8%	4.2%	0.0%	1.4%	1.5%
100mくらいまで（1～2分程度）	6.5%	3.6%	4.2%	4.3%	2.9%	0.0%
300mくらいまで（5分程度）	9.7%	12.7%	25.0%	17.4%	7.2%	10.3%
600mくらいまで（10分程度）	25.8%	27.3%	31.3%	31.9%	29.0%	23.5%
1kmくらいまで（15分程度）	25.8%	38.2%	22.9%	30.4%	29.0%	29.4%
2kmくらいまで（30分程度）	19.4%	9.1%	6.3%	7.2%	17.4%	17.6%
2kmより歩ける	12.9%	7.3%	6.3%	7.2%	10.1%	16.2%



仮定距離による分布・傾向

■ 仮定距離による分布・傾向	(m)							(人)
	仮定距離	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
100mも歩けない	0	0	1	2	0	1	1	5
100mくらいまで(1～2分程度)	100	2	2	2	3	2	0	11
300mくらいまで(5分程度)	300	3	7	12	12	5	7	46
600mくらいまで(10分程度)	600	8	15	15	22	20	16	96
1kmくらいまで(15分程度)	1000	8	21	11	21	20	20	101
2kmくらいまで(30分程度)	2000	6	5	3	5	12	12	43
2kmより歩ける	3000	4	4	3	5	7	11	34
計	—	31	55	48	68	67	67	336

その他、無回答・無効を除くΣ = 336



結果からわかること・関連事項 年齢別 [歩行(可能)距離]

- ・40～49歳の歩行距離が最も短く、これより年齢が高くなるに従い、歩行距離が長くなる傾向がみられます。
- ・1kmであれば歩くことが可能と考える回答者(「1kmくらいまで」から「2kmより歩ける」の合計)が、40～49歳で35.5%に対し、70歳以上で63.2%となっています。
- ・仮定距離による分布では、40～49歳のみ600m付近がピークとなり、これ以外の年齢層では600～1kmの間でピークがみられます。
- ・最も車に依存しているとみられる年齢層では歩行距離が短いのにに対して、高齢者は日常的に徒歩で行動する機会が多いとみられ、結果的に長距離を歩くことへの抵抗が少ないものと推測されます。

3-3 居留意向

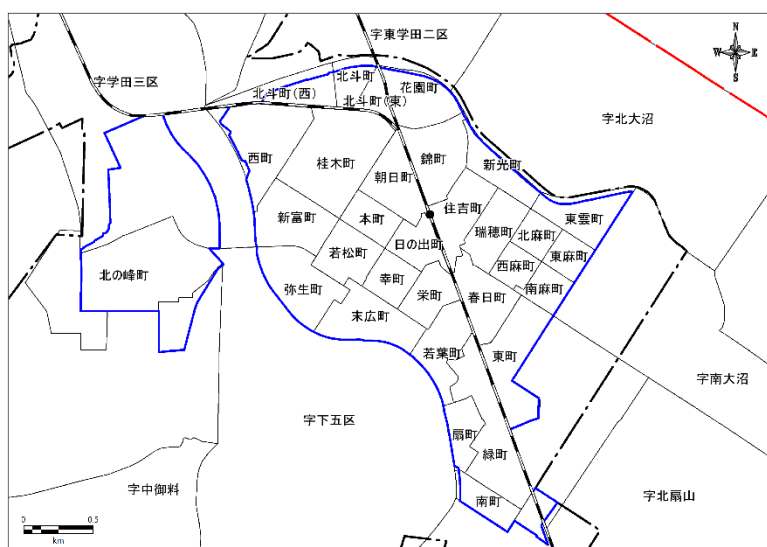
(1) Q12×Q3 居住地区別〔居留意向〕

【設問項目】

- ①現在の地区に住み続けたい：定住意向
- ②市内の他地区に転居するかもしれない：転居意向
- ③市外に今後転出するかもしれない：転出意向
- ④その他

②市内の他地区に転居するかもしれない（転居意向）に着目し、回答者の居住地を整理しました。以下、2件以上の意向を整理した結果を示します。

居住地区	②転居意向
桂木町	4件
緑町	3件
末広町	2件
新富町	2件
北の峰町	2件



結果からわかること・関連事項 居住地区別〔居留意向〕

- ・市内での転居を検討している回答者の居住地を集計したところ、桂木町、緑町、末広町、新富町、北の峰町に住んでいる方が回答しており、いずれもまちの中心部からはやや離れた場所での居住傾向となっています。

(2) Q16×Q3 居住地区別〔転居の支援〕のうち「住み替えない」回答

【設問項目】

- ①住宅購入費に対する支援
- ②リフォームや増改築のための費用に対する支援
- ③賃貸住宅の家賃等に対する支援
- ④転居に伴う費用に対する支援
- ⑤現在居住している住宅・土地の売却・除去等に対する支援
- ⑥空き家・空き地に関する情報提供
- ⑦住み替え先の地域に関する情報提供（子育て環境や介護・福祉施設の情報など）
- ⑧地域の公共交通（移動支援）に関する情報提供（通行情報や支援内容など）
- ⑨どのような支援があっても住み替えない

⑨どのような支援があっても住み替えないに着目し、回答者の居住地を整理しました。以下、意向を整理した結果を示します。

居住地区	住み替え無い人数	割合
住吉町(n=11)	7	63.6%
南麻町(n=10)	2	20.0%
東町(n=17)	3	17.6%
瑞穂町(n=12)	2	16.7%
北の峰町(n=15)	2	13.3%
緑町(n=18)	2	11.1%
桂木町(n=30)	3	10.0%
幸町(n=10)	1	10.0%
北斗町(n=10)	1	10.0%
朝日町(n=12)	1	8.3%
錦町(n=14)	1	7.1%
扇町(n=16)	1	6.3%



結果からわかること・関連事項 「住み替えない」回答の割合が高い町名

- ・駅東地区の住吉町で「どのような支援があっても住み替えない」意向の割合が 63.6%と特
に高くなっています。
- ・住吉町は駅や病院が近く、まちの中心部へのアクセスが良い住み良い場所として、「住み替
えない」意向が多いものと推測されます。

3-4 災害に対する考え

(1) Q18×Q3 居住地区別〔災害に対する考え〕

【設問項目】

- ①災害の危険性があるなら、安全なほかの地域に可能な限り引っ越した方がよいと思う
- ②引っ越しは難しいため、自宅は見捨てることになっても避難を全力で行うべきだと思う
- ③引っ越しは難しいため、引っ越さなくても良いよう行政が対策を行う必要があると思う
- ④引っ越しは難しいため、災害に備えて地域で話し合い、事前に避難計画などを考えた方がよいとおもう

①災害の危険性があるなら、安全なほかの地域に可能な限り引っ越した方がよいと思う（可能な限り引っ越し）に着目して、居住地区の整理を行いました。以下、3件以上の意向を整理した結果を示します。

居住地区	①可能な限り引っ越し
末広町	5
若葉町	5
桂木町	5
瑞穂町	5
若松町	4
緑町	4
栄町	3
西町	3
春日町	3

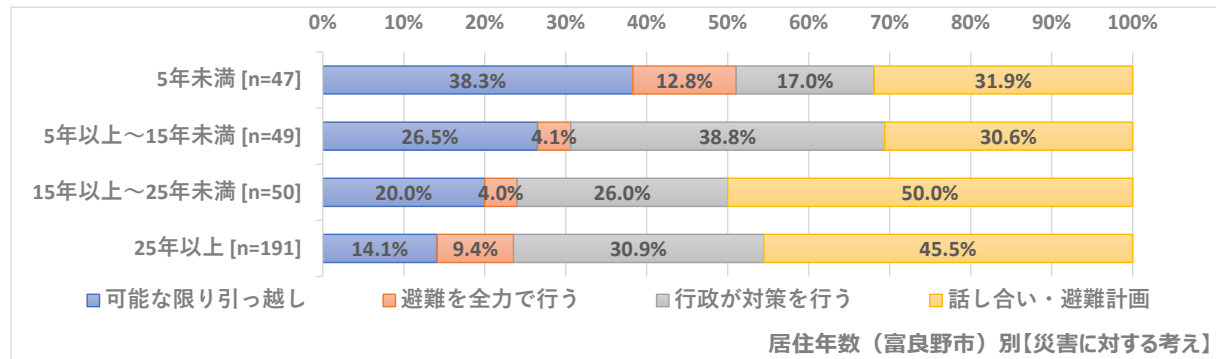


結果からわかること・関連事項 居住地区別〔災害に対する考え〕

- 可能な限り引っ越した方がよいと考える回答者の居住は、末広町、若葉町、桂木町、瑞穂町で5件となっており、居住地の分布で特徴的な傾向はみられませんでした。

(2) Q18×Q4 居住年数（富良野市）別【災害に対する考え】

居住年数(富良野市)別【災害に対する考え】	可能な限り引っ越し	避難を全力で行う	行政が対策を行う	話し合い・避難計画
5年未満 [n=47]	38.3%	12.8%	17.0%	31.9%
5年以上～15年未満 [n=49]	26.5%	4.1%	38.8%	30.6%
15年以上～25年未満 [n=50]	20.0%	4.0%	26.0%	50.0%
25年以上 [n=191]	14.1%	9.4%	30.9%	45.5%

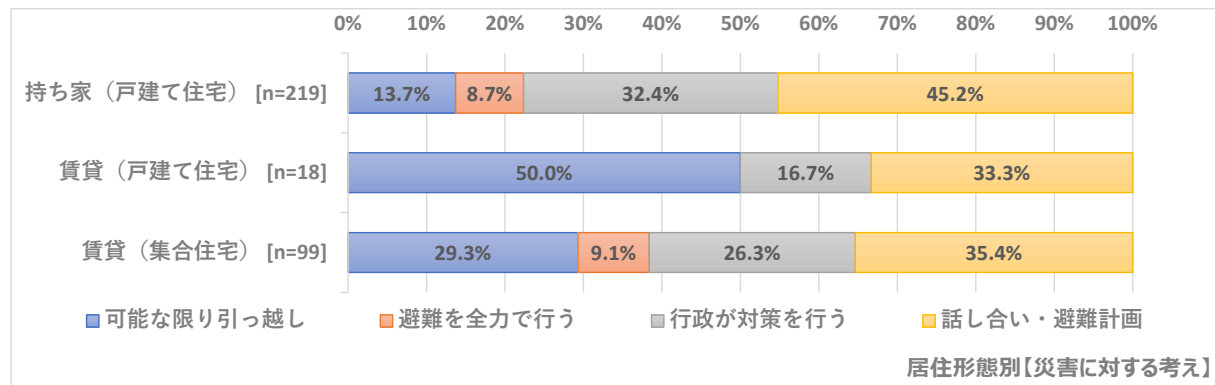


結果からわかること・関連事項 居住年数（富良野市）別【災害に対する考え】

- ・居住年数に応じて「可能な限り引っ越し」の意向は少なくなり、居住年数が 5 年未満では 38.3%であった回答が 25 年以上では 14.1%まで減少します。
- ・対照的に「話し合い・避難計画」の意向が居住年数に応じて多くなる傾向にあり、今の地域や自宅で暮らし続けたいという思いが強まるものと推測されます。

(3) Q18×Q5 居住形態別【災害に対する考え】

居住形態別【災害に対する考え】	可能な限り引っ越し	避難を全力で行う	行政が対策を行う	話し合い・避難計画
持ち家(戸建て住宅) [n=219]	13.7%	8.7%	32.4%	45.2%
持ち家(集合住宅) [n=0]	*	*	*	*
賃貸(戸建て住宅) [n=18]	50.0%	0.0%	16.7%	33.3%
賃貸(集合住宅) [n=99]	29.3%	9.1%	26.3%	35.4%



結果からわかること・関連事項 居住形態別【災害に対する考え】

- ・賃貸では、「可能な限り引っ越し」の意向が持ち家に比べて多くなっており、土地・建物にそれほど執着しなくてすむ観点からの回答とみられます。
- ・持ち家では、「話し合い・避難計画」が賃貸に比べて多くなっており、地域住民同士のつながりの中での行動意識が働いているものと推測されます。

(4) Q19×Q2 年齢別 [空間整備に対する考え]

空間整備に対する考え (条件：2つまで回答可)	全体 (n=330)	29歳以下 (n=30)	30～39歳 (n=55)	40～49歳 (n=45)	50～59歳 (n=67)	60～69歳 (n=68)	70歳以上 (n=62)
ウォーキングや体操など健康増進の場として活用	26.1%	23.3%	18.2%	13.3%	29.9%	35.3%	27.4%
オープンカフェなどにぎわい創出の場としての活用	22.4%	36.7%	32.7%	24.4%	20.9%	17.6%	12.9%
交流の場となるイベント空間としての活用	16.4%	26.7%	14.5%	6.7%	20.9%	14.7%	17.7%
リラックスできるベンチなど休憩スペースとしての活用	32.4%	33.3%	25.5%	35.6%	26.9%	27.9%	43.5%
木々の植栽やまちなかの景観形成としての活用	18.2%	16.7%	14.5%	13.3%	17.9%	22.1%	21.0%
災害時に防災機能を発揮する場としての活用	43.3%	26.7%	34.5%	42.2%	52.2%	50.0%	45.2%
子どもたちの遊び場としての活用	24.8%	23.3%	45.5%	44.4%	14.9%	14.7%	16.1%
その他	0.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

全体比率より高い年齢

結果からわかること・関連事項 年齢別 [空間整備に対する考え]

- ・「ウォーキングや体操など健康増進の場として活用」が、50歳以上でやや高めの傾向にある一方、「オープンカフェなどにぎわい創出の場としての活用」は、49歳以下でやや高めの傾向となっており、年齢層に応じて求める傾向に違いがみられます。
- ・同様に、「交流の場となるイベント空間としての活用」は、29歳以下で高い傾向となっているのに対し、「リラックスできるベンチなど休憩スペースとしての活用」は、70歳以上で高めの傾向を示しています。
- ・「木々の植栽やまちなかの景観形成としての活用」は、各年代で好みの変化がみられず平均的となっており、「子どもたちの遊び場としての活用」は、30～49歳の子育て世代において特に高めの傾向がみられます。
- ・全体で最も回答が多かった「災害時に防災機能を発揮する場としての活用」は、50歳以上の年代で特に回答が多くなっています。

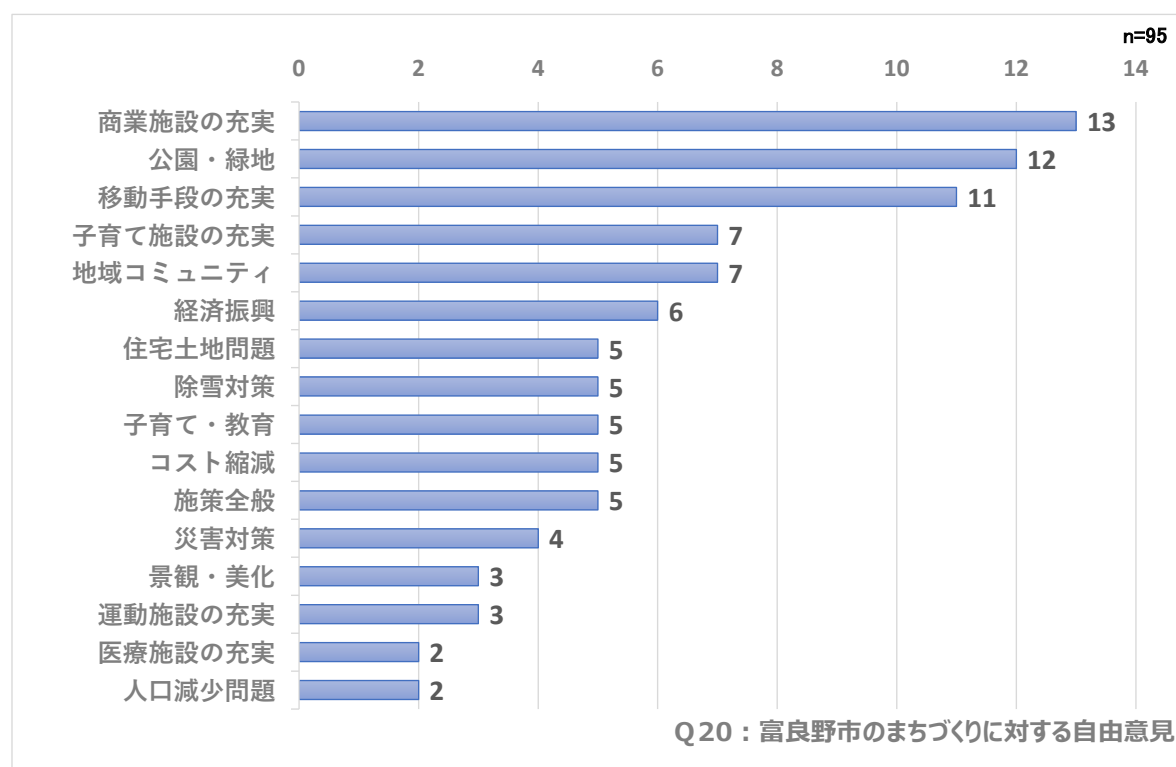
4. 自由記述の集計

4-1 富良野市のまちづくりについて

(1) Q20 自由意見 [カテゴリー区分と意見の要旨]

Q20 自由意見

区分 (カテゴリー)	回答数	具体的意見の要旨
商業施設の充実	13	大型～小規模商業施設、娯楽施設、交流拠点、雇用の場の創出
公園・緑地	12	環境整備、身近な憩いの場、市民農園、全年齢層の活用、避難所機能
移動手段の充実	11	入浴施設行き、循環バス等、歩行環境の整備、交通事故対策
子育て施設の充実	7	子どもの遊び場 (屋内・屋外)
地域コミュニティ	7	コミュニティの活用、近隣マナー、交流イベント
経済振興	6	雇用創出、ブランド化、観光の振興
住宅土地問題	5	家賃、空き家の活用、新築補助
除雪対策	5	除雪のタイミング、サービスの維持
子育て・教育	5	支援の充実、若年層の定住
コスト縮減	5	公共施設維持費の問題
施策全般	5	住みよいまちのための方向性が必要
災害対策	4	防災用品、避難場所
景観・美化	3	建物や道路の維持管理
運動施設の充実	3	サイクリング・ランニングコース、大会の開催
医療施設の充実	2	スタッフや診療科目
人口減少問題	2	人口減少への対応の意識



結果からわかること・関連事項 まちづくり全般 (自由記述)

「各種施設の充実」が全体のおよそ 1/4、「公園・緑地」と「移動手段の充実」を含めると全体のおよそ半数となります。ほか半数は 2～7 の回答数で地域コミュニティ、経済振興、住宅土地問題など多岐 (10 区分) にわたっています。

（２） Q20 自由意見〔全文掲載〕

次頁以降に Q20 で回答あった意見を全文掲載します。

性別	年齢	居住地区	町名	自由意見
女性	60～69歳	駅西地区	朝日町	人口減少がわかっていてなぜのみにあわない大きな市役所をたてているのでしょうか。反対意見を出してもききいれることはないですね。住民説明会も形だけで決まっている事の説明でほぼ確定ですよいつも
女性	60～69歳	駅西地区	朝日町	若い人たちを富良野にとどめておくためにも人々をへらさないように大学をたててもらうなど若者が富良野に集まる街になってほしい
女性	60～69歳	駅西地区	本町	前の要望として市内に大衆浴場が無い為ドライブを利用するのですが車が乗れる時は良いのですが一般の人が乗れるバスが無いのがとても不便です。何とか小さなバスでいいので1日に何便かハイランド行きのバスを運行してほしいですタクシーは高いので
女性	60～69歳	駅東地区	東町	医療の充実と大型ショッピングセンターの誘致を望みます。
男性	40～49歳	北の峰地区	x	私は車いすユーザーなのでハード面ではバリアフリー化されていない施設に行く気がおきません。ソフト面でお手伝いしてくださる方も多く助かっていますが「自力で行く」ということがやりにくいと感ずることも多くあります。夏でもそういうことが多いので、冬はほとんど外出できません。雪は車いすユーザーにとっては最大の敵です。除雪されていけば…と思うこともよくあります。今後まちづくりをしていくならば新たに作るものに関してはバリアフリーをさらに除雪等の住民サービスは維持していただきたいと思ひます。
男性	50～59歳	駅西地区	扇町	福祉に手厚い町になってほしい。旭川、富良野、南富良野町と比べるとまだ改善できることがあると思ひます。＊移動手段であるバスや、子供の医療に力を注いでほしい
女性	50～59歳	北の峰地区	x	住んでる地域の公園について、木が伸び放題の状態が強風があると倒木してしまうので、伸びた枝の剪定はある程度必要かと思ひます。
女性	50～59歳	駅西地区	幸町	富良野市は街中に集中してコンパクトにまとまっていると思ひます。生活もしやすいと思ひます。空気も町の景観もキレイで嬉しいですが、その分ゴミの分別が難しくて高齢者には一苦労なところがあります。努力、協力はする必要がありますが、もう少し簡素化できれば尚ほみよくなると思ひます。
男性	29歳以下	駅東地区	東町	子育てにやさしいまちづくりをしていただきたいです
女性	30～39歳	駅東地区	東町	若い世代がとても苦勞して生活しなきゃいけない町だと思ひます。収入がすくない身なので平均的に高い家賃、共働みに必須な車、利用しやすい月額保育施設が全て満たされてなく、かなり苦しいです。また家賃が高いから家を賃貸として土地が高い、土地の情報がネットに公開されていない、富良野の工務店がほとんど占領して自由がきかないなど富良野に住み続けるのを考えてしまうほどです。市営住宅も高齢者ばかりの町なので若い人たちは入れず、なぜかあきらかに高級な車を持っている人が住んでいたりと平等に思えませんが、再度世帯収入の調査をして頂きたいです。今のままだと富良野市は収入の多い人しか住めず、若い人が近づかない場所になると思ひます。
男性	60～69歳	駅西地区	緑町	富良野市の人口が将来減っていくのですが、何か歯止めとなりうる政策は無いのでしょうか
男性	70歳以上	駅東地区	住吉町	市民のために頑張っている内容の濃い計画を策定して下さい
女性	50～59歳	駅西地区	桂木町	買物・飲食施設等(例マルシェ)以外の観光メインの施設・広場などがほしい。観光客以外でも楽しめる場を。
男性	60～69歳	駅西地区	扇町	都市計画の大胆な変更 将来のまちを白紙から見直す必要があると思ひます。業と住の混在一コミュニティの活用
男性	50～59歳	駅西地区	弥生町	災害時の防災用品はそろっているのか？(マスク、食品、消毒液、テント、ストーブなど)
女性	29歳以下	北の峰地区	x	外国の人のまちにならないように市民が住みやすい北の峰を守ってほしいです。
男性	30～39歳	駅西地区	新富町	屋外で運転しやすい整備をしてほしい。町内でサイクリングコースを設定整備したり堤体上の道をラバーにしてランニングコースを設定整備をしたり運動環境がほしい、あと夜間でも走れるようにライト整備を。ふらっとの営業時間を延ばしてほしい。今の営業時間では仕事帰りに寄ることができず、とても不便を感じている。
男性	50～59歳	駅西地区	x	市住(公住含む)について古くから活用が見込みの薄いものは美観、安全の面からも積極的に解体していくほうがよいと思ひます。観光産業の育成は大切ですが、外国人に依存したり、来訪者もおもねるような他人まかせ、他人だのみの進め方では先が続かないと思ひます。市民が幸せに暮らし、そこに憧れる人が足を運んで時間を共にする…そんな観光のあり方が大切なのではないでしょうか
女性	30～39歳	駅東地区	春日町	室内での子供の遊び場をもっと充実させてほしい
女性	70歳以上	北の峰地区	下御料	人口減少は止めることはできない現状と思ひます。根本的な政策(例えば収入面、男性女性との差のある条件等。また、子育てプランにも不十分な政策国としての政策が根本ですが)外国の方などの進出が目立っており土地の売買も活発化していますが富良野市のリーダーシップをもってどの立場の方にもしっかりとした説明と責任をもって対応してみんなが含まづける富良野のまちづくりをしてもらいたいです。
男性	60～69歳	市街地周辺地区	下五区	空知川の河川用地に木を植えるのをやめてほしい、水害の時水の流れが悪くなる。(大雨の時増水するといつも大変心配です)
女性	70歳以上	駅東地区	東町	継続性のある事業で維持管理に税金が多く使われない整備をして頂きたいと思ひます。
女性	30～39歳	駅西地区	緑町	ゴミがなく、植物が豊かな町にするためのイベントをしてほしい。地域みんなでできるイベント
女性	50～59歳	駅東地区	瑞穂町	今の家にこれから住み続けるとしたら、やはり除雪ははずせない条件です。現在のさらさらっていきような除雪のやり方では、年を取った時にかなりの負担になるうえに車があざったりして非常に不便で不安です。業者も個人宅の小さな仕事を受けてくれるところはどこにもありませんから。人口減による税収減が先にあるとすれば支出を抑えるしかないと思ひます。ハコものにお金を使うのはほどほどにしてほしいです。
男性	40～49歳	駅東地区	瑞穂町	全く将来性のない町だと思ひます。子供の事や買物の事を考えてない市だと思ひます。これなら市民のネットショッピングが増えているんだと思ひます
男性	40～49歳	北の峰地区	x	観光に頼らないまちづくりを希望します。市民生活を充実させて下さい。
女性	50～59歳	駅西地区	緑町	町内会には廃止した方がよいのではないのでしょうか、班の高齢化が進み若者の負担が多いです。(高齢者は高齢過ぎて役員などが出来ず若い人にすぐ回ってきます。若い人が少ないので)土地や建物が安いからと言って中国の方に売買するのを止める案を作っていただけませんか？(国が動かないので市独自でお願いします)台湾人じゃないのに、台湾人のふりして商売をする中国の方々がいたりして少し怖いです。市の中心部から市内の少し遠くまで遊歩道やサイクリングコースなどがあれば市内の人々が自然に歩いたり、自転車に乗ったり運動するようになるかと(河川敷を利用)
男性	60～69歳	駅西地区	西町	災害時の意見です。例えばコロナと共生の中災害が起きた場合でも暑さの中で外が使えない場合は室内で過ごせる場所作りが必要だと思ひます。災害があり避難後遅くても1か月だけ避難生活できるよう(長期にならない対策づくりが必要)(特に家がなくなった場合)まちづくりでは動物と共存できる町が一番いいです(例えばくまやしかなど)生き物が昔のように自然の中で生きていけるよう私たち人間は物の時代から心の時代を大切に考えなければいけない時代になったのではないかと感じています。地球を大切に皆仲間です
男性	60～69歳	駅東地区	錦町	市内に雨天時に遊べる施設がなく、美瑛町まで幼児を連れて行っています。
女性	29歳以下	駅西地区	西町	ファミリーマートを作ってほしい。チェーンの飲食店を作ってほしい。大型商業施設(イオン)を作ってほしい。大学を作ってほしい。なぜなら働くところが少なく限られてしまうから。チェーン店の飲食店をふやすことで外食が増える旭川、滝川、札幌まで行かないといかないのが不便。
女性	60～69歳	駅西地区	西町	今回のコロナワクチンについてですが、集団接種として市民がもう少しスムーズに接種できるように早い時期に終わるように動いてほしいです。
男性	60～69歳	駅西地区	桂木町	除雪対策をもっとしっかりとハイドバンを上げて走らないで、途中で移動しないで最後までしっかりして下さい

性別	年齢	居住地区	町名	自由意見
男性	30～39歳	駅西地区	x	人口減少が続く富良野市。農業観光業だけで生き残っていくのは無理があると思われる大型商店街施設遊戯施設等の誘致イベントの開催がないと自然豊かな富良野だがそれを魅力的に感じ永住する人がどれ位いるだろうか？後世が住み続けていくためにもよく考える必要があるのでは？
男性	50～59歳	駅東地区	住吉町	子どもが通学のため旭川に下宿していた頃一見ダムに思える河川敷や廃線になった線路跡に木陰があり読書や物思いにふける時等が良かった。富良野はそういうと所無いよね。とっていました。中々難しいですがまちづくりの意見の足しに入れて頂けると幸いです。
男性	60～69歳	駅西地区	x	北の峰周辺での海外資本流入が懸念されます。地元民の不安の声と耳にすることが増えました。転売で北の峰を離れる方もいると聞きます。人の住まない不毛地帯では地域は不安になり転職したくなると思います。規制も必要かと思えます。
女性	40～49歳	北の峰地区	北の峰町	北の峰に住んでいます。町内に小さくてもいいのでスーパーがあれば高齢になっても住み続けたいと思う
女性	50～59歳	駅西地区	桂木町	このままでは富良野は若い人が住みずらく生きずらい街になると思う。他の市町のように新しいことに目を向けてチャレンジするほうがいいと思う。ふるさと納税もおこなわれているため、町にいろいろお金を使っていないのでは？老人も車のない人たちもスーパー病院にいろいろ行けるように近くでは赤平市のようなスーパーと連携して巡回バスなどもう少し便利にしてあげたら良いのではないかと。乗合タクシーでもいい。
男性	50～59歳	駅西地区	西町	JR、バスが不便本数も少なく
男性	70歳以上	駅東地区	瑞穂町	私も来年後期高齢者の仲間入りとなり先々の事を少し考えるようになりました。今の居住地はスーパー病院等近くにあり大変便利です。現在もう20年近くになりますが市民農園を借り健康と利用者との交流もありあとはピンコロ死を願っています。市住民サービスを利用して行く中で願わくは現在島沼公園まで片道4～5kmありますが、そのため車を所有しているので歩いて通える1～2km位の近くに市民農園があればと思います。ちょっとわがままですね。
女性	30～39歳	駅西地区	桂木町	富良野の良さをもっと全面的にアピールできる施設があるといい。例えば地元野菜を身近に手軽に手に取れるファーマーズマーケット(外国では日常)の定期開催、地元個人店の出店もあり景観を堪能できる商業施設(カンパーナのような果物のカフェ)かイベントの開催など市外の人も市内の人も来なくなるような面白さ活気ある場が増えるといい。
男性	40～49歳	駅西地区	末広町	期待してます
女性	70歳以上	駅東地区	東町	現在5線道路改良工事が行われていますが昨年行われた歩道に植樹された松の木がほとんど枯れてしまっている様です今年もまた同じ木を植える様ですが一部見通しの悪い所もあるようです。背丈の短い木(ツツジ等)が草花が良いと思います。植樹する時期も考慮されたいと思います。
男性	30～39歳	駅西地区	北斗町	扇瀬公園の水場をきれいにしてほしい。子どもが遊べるように。遊具のすべり台の鉄をやめてほしい。北斗町にも水場がほしい。医療費を中学生まで無料にしてほしい。富良野市に住んでいても恩恵がない。だからほしい。
女性	60～69歳	北の峰地区	北の峰町	①町内会の班の状況 18世帯ですが、単身世帯(ひとり親含む)が8件、介護保険利用者が2世帯、民泊世帯が1件。それぞれが何らかを抱えています。18世帯の中10世帯はハンディがあります。34名の移住者のうち65歳以下は9名高校生は4名です。限界集落は他人事ではなく、町内会合併や行事の縮小化は必然的です。町内会に広げて同様の減少で、他の、町内会も同じような減少に近いことを聞きます。②①の状況から夏の草取り冬の除雪は当人の価値観もありますが、地域の景観を損なうものとなります。③ニセコと富良野は同じように取りだされます。ニセコでは、外国人が多くジャパニール、→他人の敷地に入らない、他人の庭の草花を折らない、整列、割り込まない、大きな声で話さない(怒鳴るように話さない)ゴミの分別ができない、細かい他人への気づかい、思いやり、押し付けても根付くものでもなく、公道の花壇の草取りはニセコは困難になっていると聞きます。そこは行政だど…共存共栄を図るには、小さな生活環境が(町内会の班単位)話し合うしかないと考えます。④地域のクーポン券、の噂は本当なのでしょうか？クーポンを現金に換えるために、加入商店は3%の手数料を商工会に支払うために、あらかじめ少し高く値段を設定している→嘘であってほしいと願います。⑤富良野の平均世帯年収は200何万とか…同人口の土別、名寄と比較しても議員報酬、年収は高く、どが板議員など見当たらず、報酬は市の議員と合算している、580万の年収は生活給で何十年も受給している、地域の連合行事には参加するが、ただ酒の飲み放題、最後までしていると聞きます。勉強したり、資格を取っていることもないと聞きます。受給国家資格受給を公開してほしい。その知識は市民の生活向上の役に立っている具体的な事実と根拠を教えてください。議員の定数削減、報酬激減を希望します。絶対ならないけど…自分たちの環境悪化はしないのが常…⑥そのうち農協や消防と同様に、市町村の合併が進み蓋を開けたら責務が多いのは農協のように富良野だったりして、だから、子供の医療費の無償化は近隣と明らかな不均衡…つれづれと書きました。自由意見です。
女性	60～69歳	駅西地区	北斗町	40年以上ぶりに地元に戻ってきました。老後は富良野でと思っています。誰にでも知られている憧れの場所「富良野」ですが実際は過疎化が進んでいます。美しいだけ観光客にだけに頼っているのでしょうか？雇用がなければ生活できません。先ず賃金と物価(家賃など)のバランスが悪いのです。例えば物づくり(農業以外)「ふらのオリジナル」のブランドがあれば年間の雇用につながるのでは？それもお土産品というものではなくちゃんとした価値のあるもの。例えば尾道(広島)には「尾道帆布」というものがあります。またぶどうのツルで編んだカゴバックは高級品です。例えばの話ですが、そんなオリジナルブランドがあれば良いですね。「適正化計画は関係ない？」子供と老人が共生するまち。運動は大事ですが動けるうちは働く(月に一回でも)事が大事。その為の仕組みいつまでも(1人でも)自分の家に最低限の支援と費用で住み続けることが理想です。「まちづくり」には関係ないかもしれませんが全てつながっていることだと思い長々と書いてしまいました。
男性	70歳以上	駅東地区	錦町	「健康都市」との言葉を～どこかで聞いたことがあるが～？ここでは下記2点について述べたい①医療施設の充実(特にスタッフ)～増々の高齢化社会となり社会資本の選択的投資がさらに必要となる上からも特に基幹的病院の協会病院の待ち時間短縮、科目の増、医師の増等は市民(私たち)の最大の希望であると思われる。②各町の除排雪の利便性の向上～北国の宿命として降雪の処理は大きな生きて上での課題、高齢者のさらなる増加のコミュニティーの近所での除排雪は生きてく環境の最大限のテーマ朝起きての除雪時の公共による除雪の玄関前への堆積が天を仰ぐため息の漏れる日の始まり…。以上私見として、健康都市との整合性をお聞きしたいものです。最後に一言…。今建設中の新庁舎の姿を図るにつけ、資本資格との間に大まるギャップと違和感を覚える方は市の中(首長、議員、職員)にいませんか？それが最も問題では？市民(我々)の健康とは？善戦を祈ります。
女性	60～69歳	駅東地区	錦町	駅から協会病院へつながる陸橋の老化がひどいので、建て替えか(より便利な)踏切にしてほしい。ポッポブリッジを利用するにもエレベーターが狭すぎて手間もかかるし、使い勝手が悪すぎます。観光客のためにも駅前にコンビニがあるべき。コンシェルジュも目的が観光客、市民どちらのためにあるのか疑問でした。集客の見込める施設、企業を誘致して周りの商店にも足を向くようにしては
女性	50～59歳	駅西地区	西町	バス停がまあまあ近くにあるが分かりづらいのでわかれば利用したいと思う。今は車で移動できるが免許返納した場合利用したいがいろいろ不安はつきない。
男性	40～49歳	駅東地区	瑞穂町	高齢化が進む中、高齢者を支えるのも若い人たちが必要不可欠。そんな若者たちが居心地の良い環境(職場やレジャー娯楽施設など)の整備に力を入れていただきたい。小さな子供たちを安心して遊ばせられる家族向けの公園、レジャー施設等を増やしていただきたい。

性別	年齢	居住地区	町名	自由意見
男性	60～69歳	駅東地区	東雲町	1アンケートとしては良いと思うが、現実的なことが見えない？2今後5年10年後のフラノについて考えても方向性が一本化されないと思う。3基本となるフラノ市の将来は何を目標、目的として進んでいくのか。以上3項目について一考下さい
女性	40～49歳	市街地周辺地区	学田三区	朝日ヶ丘公園にアスレチックなどの小学高学年や中学生が楽しめるような工夫が増えてほしい。どこの公園も小さい子供ばかりで遊びにくい。ゲームくらいしか出来ないことがない。部活仲間以外の交流も大切だと思う
男性	50～59歳	駅西地区	西町	公園や河川に大人が運動できる器具があれば散歩も移行かなと思う。気軽にいつでも無料で参加できるラジオ体操などの情報
女性	50～59歳	駅西地区	x	海外資本または海外からの移住が増える可能性もあるので、そういったこと地元の人たちとのバランス(建築物の外観から生活の仕方、交流のしかたなどなど)をどうやってとっていくのか考えておくべきだと思う。観光地でもあるので、公の施設については、それ自体が観光名所になるようにお金をかけたり、デザインを考えたりしていったら良い。そのことが市民のためにもなるのでは。自然と調和した市民も観光客も集まる図書館とかどうでしょう？市役所ももう作っちゃってますが観光名所になるぐらいのステキなデザインにしてほしかったです。
女性	29歳以下	駅西地区	桂木町	子どものあそび場が少ない。赤ちゃん～1,2歳頃の遊ばせる場がなくて困った。(公園の遊具もまだ一人で遊べないため)水遊びのできる公園やいつでも利用できる屋内施設があればいいと思う。
男性	60～69歳	駅東地区	x	自動車で錦町から本通りに車で行きたい。
男性	40～49歳	駅西地区	若葉町	交通事故のない安全安心なまちづくりのため車の交通がない歩いて移動する広場などができるとよいと思います。
女性	40～49歳	駅西地区	桂木町	小中高のエアコンの導入を早期に行ってほしい。今年の様に毎月30度越えて教室で勉強はできないと思います。マスクもつけていてかわいそうです。学童もエアコンを入れてほしいです。学内で熱中症になりそうない暑さのようです。富良野小学校の職員室にはエアコンがつくというウワサで聞きました。子供達は後回しということですか？職員室に入れるのなら各教室にも入れてほしいです。
女性	40～49歳	駅西地区	若葉町	富良野に転居して、現在は、住みやすさや、行政サービス等に特に不満はありません。今後長い目でみると、人口の減少、高齢者の増加、は明らかのため、住宅の購入をして、永住する選択はできないだろうと考えています。どこの市町村でも同じような問題があり、住民が高齢になると、不便な所から、子供がいる都心への転居が見られるような気がします。私たち夫婦も、高齢になった時に同じような考えになるのではと考えています。コロナ禍の今、新しいライフスタイルも始まり、富良野市民らしい新しいまちづくりやサービスの提供で、市民の皆さんが満足できるいい町になることを期待したいと思います。
女性	70歳以上	駅東地区	住吉町	街中隣家接近、外でBQ大勢、大声で時間無制限でBQの煙が窓を開けても2～3日消えない。街中外でBQフラノは容認？駅裏、スーパー（ラルズ・ホクレン、名は例として）必要
女性	40～49歳	駅西地区	桂木町	屋外での活動の推進は逆行するかもしれませんが、他県・市町村からの人の流れを作る目的の一環として総合体育館の改築若しくは増設を求めます。(大きな大会を開催できるように)それに伴い、富良野市民の活用の仕方にも工夫が必要かと思っています。
男性	70歳以上	市街地周辺地区	西学田二区	子育てに重きを置いて考える。
女性	50～59歳	駅東地区	錦町	ニューヨーク市内のセントラルパークのように、又は札幌市の大通りのように2～3丁目分縦長の公園、避難場所になり願いの場所になる公園が望ましい。冬は雪捨て場になると思う。
女性	30～39歳	駅西地区	若松町	転勤のため市街から来ました。観光地でありながら住みやすい街だと思います。仕事の都合で数年しか住めませんが、もっと良い街になってほしいです。住んでみて気になる点があります。①街灯が少ない②車の交通マナーが悪い③市内バスの便が少なく不便④市役所周辺に歩道がない(通学路で工事車両が通っていて危険です)良いと感じたところ①広報誌の内容が充実している(電子版でバックナンバーも読みました)②街がコンパクトで普段は車がなくても支障がない③ゴミの分別が大変だがアプリが便利以上です。富良野市のLINEも登録しました。情報発信楽しみにしています。
女性	60～69歳	駅西地区	扇町	税金を正しく使ってほしい。働かなくても働けない体の不自由な人、働いても低賃金の人に支援することは、良いと思うが健康なのに働かず支援を受けている人や家族皆が支援を受けている人に対し疑問に思うことが多々ある。市内でもかなりの人が支援(生活保護)を受けているようですが、お金の使い道(ギャンブル)等を厳しくするべきだと思います。一生懸命働いて税金を払っている人が報われる街でなければ！と思います。
女性	30～39歳	駅西地区	若葉町	今の場所(若葉町)は、とても生活しやすく、このままなら、高齢になってからも、車がなくても充分不便なく暮らせるだろうと思っています。市街地、というのがどこまでの範囲で、もっとコンパクトに利便性を高めていこうとされているのか、理解してなくて、申し訳ないのですが、とても住みやすく、快適なので、このままであってほしいです。子供を育てていて、感じていることは、太陽の里が、また使いやすい、楽しみの多い場所になってほしいということです。遊び場は、多ければ、多いほど、子育て世代にとって嬉しく、近郊からの集客にもつながると思うからです。
男性	60～69歳	駅西地区	若松町	北の峰地区での中国企業による土地・建物買収について、現状調査が必要だと思います。地域住民との間に、ゴミ処理についてのトラブルが発生していると聞いています。住民の不安が出現しているとの事です。ニセコ町、倶知安町のリゾート地区でも、外国資本の進出でいろいろと問題があるとニュースで報じられるところです。今後のまちづくりを考えるにあたり、外国資本について調査すべきと考えます。
女性	70歳以上	駅東地区	春日町	市内の遊び場付公園にも70歳以上老人の運動スペースあるといい→雨雪でなるべく劣化しないもの
男性	30～39歳	駅西地区	緑町	若者の住みやすい街づくりをしてほしい。娯楽施設をつくってほしい
男性	60～69歳	駅東地区	花園町	特になし
男性	29歳以下	駅西地区	北斗町	障がいのある人が一人で歩ける(安全に)町。老若男女障害のあるなしに関わらず皆がお互いに尊重し合い交流できるイベント等があれば良いと思います。
女性	50～59歳	駅西地区	弥生町	観光シーズン街中の一時停止無視による交通事故が非常に多い。何度もあぶない目に合っている。安心して通れるミリにしてほしい。道路の安全について意見を言う場が身近にあると良いと思う。高齢者の免許返納後の移動手段を充実させてほしい。色々あるならもっとオープンにしてほしいです。
x	70歳以上	駅東地区	新光町	市内循環バスが有ればいいと思います。ハイランドフラノ行きのバスはあるのですか？温泉浴場施設が気軽にに行ける様にしてほしい
男性	29歳以下	駅西地区	緑町	公園等はたくさんありますが遊んでいる子供を見ることが少ないと思います。地域ごとに広い公園にして見晴らしよく小さい子供から高齢の方も過ごせるようなところがあればと思います。
女性	40～49歳	駅東地区	新光町	・道路の白線をもう一度きれいはっきり引き直してほしいです。白線がうすいところが市内でたくさんあります。子供の安全や交通事故防止のためやっていただきたいです。・冬の道路の除雪をもっとスピーディーにやっていただけると大変助かります。・市民に恩恵ある富良野市になってほしいです。・市役所職員も少し減らすなど考えてほしいです。
男性	30～39歳	駅東地区	南麻町	毎年子育て支援の内容の強化をアンケートに記入しています。他の市町村では学生の医療費を無料化したり住宅取得時の支援が行われています。周りの市民と話してもとくに子育て支援内容は必要と思っているという話をききますが、全く改善されていません。アンケートに記入しても改善されるような状態ではないので記入する意見もないと感じてきています。改善する気がないのであればアンケートもやめればいいと思います。個人的には無駄だと思って記入しています。

性別	年齢	居住地区	町名	自由意見
男性	60～69歳	駅西地区	幸町	人口減少に伴う不動産の価値劣化を将来的に考えれば、家を持とうという人も減ってくると思われ、市営住宅で安価な家賃で良いと思う者も多くなると思われる。歳をとるに従い病院や公共施設の近い所に住みたいと思うのは性と思うが、いかんせん中心街の市住は空きが無い状況である。市営住宅の建設については坪100万円以上の建築費用がかかっていると思われ、おいそれと増やすことも出来ないと考えていることから、建設するより遥かに安価な民間アパートの借上げを促進し中心街の移住を進め、中心街での人的交流や消費拡大にもつながると思われコンパクトシティをすすめる一つの方法と思う。
女性	60～69歳	駅西地区	緑町	ネコ飼っている人はなさないでほしいです。
女性	30～39歳	駅東地区	東町	観光産業ともつながれば良いと思います。「北の国」を知らない世代が中心になるけど町中には意外と何も無い富良野の町を気に入ってもらえるようにするには行政の力は重要だと思います。ベタだけど足湯があるスペースがいっぱいあるとか町の人と観光のお客さんが一緒にいられるスペースがあると良いと思いました。チーズ工房とワイン工房→観光 朝日公園→地元の人 みたいにわかれていくからもったいないのです。
男性	70歳以上	駅西地区	x	「令和22年までに6000人位の人口減が予測される」と書かれてありましたが、何とか人口減を止めるような対策を考えて遂行していくべきだと思います。行政と民間の力を合わせて実行していきましょう
男性	70歳以上	駅西地区	桂木町	町内会に防災組織がありますが、災害時の用具等を保管する物置の補助支援(例：費用の二分の一、上限20万円)があれば利用したいので検討願いたい。
女性	60～69歳	駅西地区	若松町	LPガス代の基本料金が安くいつか天然ガスになる日がくれば良いなと思っています。5番通りを横切って通勤していますが冬の除雪夜中にやってほしいです。通勤の時間にやるなんて最低です。
男性	40～49歳	北の峰地区	北の峰町	ニセコ地区のような状況にならないようにする事の必要性インバウンドに依存する事がない街になれば良い
男性	30～39歳	駅西地区	桂木町	隣町は新築の補助などあるのに富良野市は条件があつたりだから若い人は隣町へ引っ越ししてしまうのではないかと思います。人口を増やすためには、そういう部分をもう少し考えてほしい
女性	60～69歳	駅西地区	西町	色々なまちづくりを考える事は大変良いと思いますが基本的な生活をするために富良野市は水道料金が安く年金生活者にとってはとても住みやすい街とは思えないです。
男性	40～49歳	駅西地区	扇町	・全国チェーンの飲食店/商業施設を誘致してほしい(富良野市にないため、都市部へ行く事が多い) ・富良野駅周辺にコンビニ開店してほしい(R38R237付近にしかないため歩行者は不便) *20～25年位前までセブンイレブン1軒あった
女性	70歳以上	駅東地区	南麻町	市の緑地があるのですが実際は木も植えられてなく草が伸び放題になっています。春秋の2回位は草刈りをしてほしいと思います。草が伸びているとそれをいい事にして車を止めゴミ等を捨てていく人がいるので
女性	29歳以下	駅西地区	x	駅東地区にスーパーがありませんので、線路を超えて買いものに行かなくてはならないため不便です。車がないと全体的に不便なまちだと感じます。
女性	30～39歳	駅西地区	栄町	応援しております
女性	29歳以下	北の峰地区	北の峰街	新しいアパート、マンションが出来るとてもいいが、家賃が高い。
女性	50～59歳	北の峰地区	北の峰町	外国人のマナーが悪い。家の中をのぞかれた話を聞くと安心して暮らせない。
女性	70歳以上	駅東地区	新光町	富良野も市内移動するタクシー補助があると嬉しいですが、高齢者が多い富良野も活動する場所には高齢者が乗せてという大変心配しながら活動を行っています。何かいい手立てはないのですか？私は現在パークをして体を動かしていますが、この雨不足でパーク場の芝が枯れています。沢山の人たちがこのコロナ禍の中、唯一マスクしながら楽しめる場でもあります。水をまくなど出来るよう灌水施設の補助などをお願いします。
女性	70歳以上	駅西地区	扇町	現在の状況に概ね満足しています。今後ともお世話になります。よろしく願います。
男性	30～39歳	駅西地区	栄町	富良野を観光地として整備してほしい。観光地として有名になればなるほど一般の市民は住みにくくなる。道は渋滞し、運転の不慣れな人による交通事故も起きる。コロナを持ち込まれるリスクも上がる。店をやっている人以外はただただ迷惑なのです。
女性	70歳以上	駅東地区	東町	観光客ではなく市民の事を考えたまちづくりをお願いします。
男性	30～39歳	北の峰地区	北の峰町	市内での緑の公園が少ないと思う。
女性	70歳以上	駅東地区	南麻町	無理な都市化を目指さずに農村らしい街づくりを目指してほしい。
女性	70歳以上	駅東地区	南麻町	人口減少が予測される中、大きな市役所は必要でしたか？ 町外れに住んでおり、市街地に出かけますのは用事足し、買い物に行くのみです。 街中で椅子にかけておしゃべりやのんびりできるのはちょっと楽しみです…。 そういう習慣が無いので、どれくらいの人が利用してくれますかね！！
女性	70歳以上	北の峰地区	x	高齢者が生きがいを持てる「憩いの場」が現在どんな場所でどんな利用が出来るのか、またあったとしたらその場所までの交通手段はどうなのか？地域ごとに何かしら行っていると思いますが、よくわからないことが多いです。
男性	50～59歳	駅東地区	東雲町	最低限必要なもので十分じゃないですか？
女性	60～69歳	駅東地区	春日町	子どもたちの水遊びの場、そり遊びの場
女性	60～69歳	北の峰地区	北の峰町	わからないところあつてごめんなさい
女性	30～39歳	駅東地区	錦町	・子供用品のお店があると良い ・人口は減少してるのかも知れないが観光客はそれなりにいるので、大型とは言わなくても商業施設があっても良いのでは？

5. アンケート調査票

「富良野市立地適正化計画」策定にあたっての アンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆さまにおかれましては、日ごろから市政にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、社会情勢の変化や関連法の改正等を踏まえ、令和3年3月に第3次都市計画マスタープランを改定しました。本マスタープランでは将来都市像である「安心・安全で多様な世代・世帯が住み続けられる快適な都市空間を形成する地球にやさしいまち」の実現を目指しており、人口減少下においても安心して快適な暮らしを持続できるよう各種施策を進めていくため、このたび『富良野市立地適正化計画』を策定いたします。

この調査は、計画の策定にあたり、対象区域にお住まいの方を対象に、本市のまちづくりに関して皆さまのご意見を伺い、基礎的な資料とすることを目的としてアンケート調査を実施させていただくものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月 富良野市長 北 猛俊

※ 立地適正化計画とは、持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するため、市町村が必要に応じて策定する計画です。持続可能なまちづくりに向け、人口密度を維持し、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能を適正配置するものです。

ご記入、ご返送に際してのお願い

- アンケートの回答は、封筒宛名の**ご本人**が記入してください。
(ご本人の回答が困難な場合は、身近な方が代筆されて構いません)
- 回答は当てはまる番号を○で囲むか、又は直接枠内へご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、そのまま同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**8月4日(水)**までに郵便ポストへ投函してください。
- 個人情報保護のため、返信にあたって封筒裏面への記名は不要です。
- この調査に関して、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。



【 お問合せ先 】

富良野市 建設水道部 都市建築課 担当 渡邊

TEL : 0167-39-2316 FAX : 0167-39-2332

電子メール : kenchiku-ka@city.furano.hokkaido.jp

アンケート調査票

富良野市のまちづくりに関して、市民のみなさまのご意見をお聞きするアンケートです。

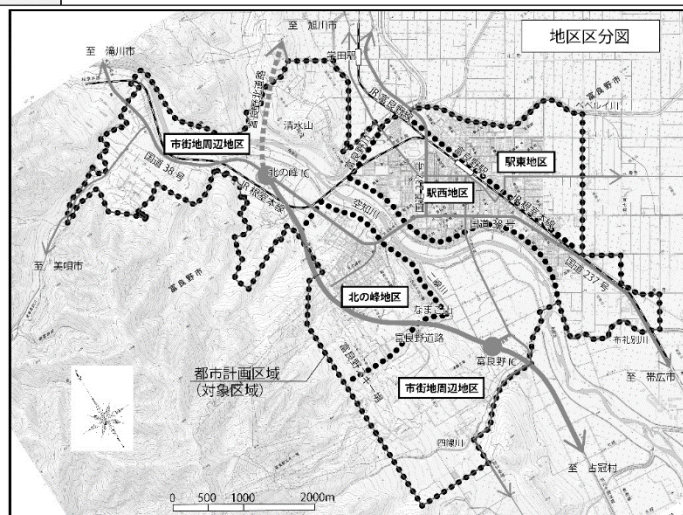
(1) はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。

(各項目のあてはまる番号 1つ に○を付けてください)

Q1. 性別	1. 男性	2. 女性
--------	-------	-------

Q2. 年齢	1. 29歳以下	2. 30～39歳	3. 40～49歳
	4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70歳以上

Q3. 居住地区 (町名を○で囲んでください)	1. 駅西地区 朝日町 / 本町 / 若松町 / 日の出町 / 幸町 / 末広町 / 栄町 / 若葉町 緑町 / 扇町 / 南町 / 弥生町 / 桂木町 / 新富町 / 西町 / 北斗町 西扇山 / 南扇山
	2. 駅東地区 春日町 / 東町 / 花園町 / 錦町 / 新光町 / 住吉町 / 瑞穂町 / 東麻町 西麻町 / 南麻町 / 北麻町 / 東雲町 / 南大沼
	3. 北の峰地区 北の峰町 / 学田三区 (JR 根室本線を境に南側) / 下御料
	4. 市街地周辺地区 西学田二区 / 学田三区 (JR 根室本線を境に北側) / 清水山 / 島ノ下 中御料 / 下五区



Q 4. 富良野市での 居住年数（※）	1. 5 年未満	2. 5 年以上～15 年未満
	3. 15 年～25 年未満	4. 25 年以上

※ 途中で富良野市を離れた方は、その年数分を差し引いてください。

Q 5. お住いの住宅	1. 持ち家（戸建て住宅）	2. 持ち家（集合住宅）
	3. 賃貸（戸建て住宅）	4. 賃貸（集合住宅）

（２）普段の「暮らし」についてお伺いします。

普段の「暮らし」について、Q 6～Q 14 をお答えください。

Q 6. 自家用車（同乗含む）の利用頻度（1 つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週 3, 4 回	3. 週 1, 2 回	4. 月 1, 2 回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-------------	-------------	-------------	---------	----------

Q 7. 鉄道の利用頻度（1 つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週 3, 4 回	3. 週 1, 2 回	4. 月 1, 2 回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-------------	-------------	-------------	---------	----------

Q 8. バスの利用頻度（1 つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週 3, 4 回	3. 週 1, 2 回	4. 月 1, 2 回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-------------	-------------	-------------	---------	----------

Q 9. 各施設の利用頻度（それぞれ 1 つに○）

	ほぼ毎日	週 3, 4 回	週 1, 2 回	月 1, 2 回	年に数回	利用しない
1. 日常的な買い物	1	2	3	4	5	6
2. 医療施設	1	2	3	4	5	6
3. 高齢者支援施設	1	2	3	4	5	6
4. 子育て支援施設	1	2	3	4	5	6
5. 文化・スポーツ施設	1	2	3	4	5	6

※日常的な買い物：スーパー、ドラッグストア、商店街など（コンビニエンスストアは除く）

医療施設：総合病院、専門病院（歯科は除く）

高齢者支援施設：デイサービスやリハビリテーション等の通所系施設（居住系は除く）

子育て支援施設：子育て支援センター（保育所は除く）

文化・スポーツ施設：文化会館、図書館、ふれあいセンター、中心市街地活性化センター（ふらっと）

Q 1 0. お住いの地区、または自宅周辺の便利さについてお答えください。

(それぞれ1つに○)

設問項目	便利さ判定	現在の住みやすさ				
		大変便利	便利 おおむね	どちらでもない	あまり便利ではない	大変不便
1. 通勤・通学のしやすさ		1	2	3	4	5
2. 通院のしやすさ		1	2	3	4	5
3. 日常の買物のしやすさ		1	2	3	4	5
4. 公園や広場の利用しやすさ		1	2	3	4	5
5. 会館やコミュニティ施設の利用しやすさ		1	2	3	4	5
6. 高齢者・子育て支援施設の利用しやすさ		1	2	3	4	5
7. 公共交通の使いやすさ		1	2	3	4	5

Q 1 1. どのくらいの距離であれば目的地まで歩いて行こうと思いますか。(1つに○)

(参考：富良野駅からフラノマルシェまでが約600mです。)

1. 100mも歩けない	2. 100mくらいまで(1～2分程度)
3. 300mくらいまで(5分程度)	4. 600mくらいまで(10分程度)
5. 1kmくらいまで(15分程度)	6. 2kmくらいまで(30分程度)
7. 2kmより歩ける	8. その他()

Q 1 2. 現在お住いの地区に住み続けたいですか。(1つに○)

1. 現在の地区に住み続けたい
2. 市内の他の地区に今後転居するかもしれない
3. 市外に今後転出するかもしれない
4. その他()

Q 1 3. 上記 Q12 で「2」又は「3」と回答した方にお聞きます。

もし市内での転居を考えるとしたら、どのような場所が良いですか。(1つだけ○)

1. 各種施設が立地する便利な市街地の中心部(具体的に 町)
2. 市街地の中心部ではない住宅地(具体的に 町)
3. 市街地の外縁部に近い閑静な住宅地(具体的に 町)
4. 多少の不便さはあるが、閑静な郊外の場所(具体的に 町)

(3) 今後の「まちづくり」についてお伺いします。

今後の「まちづくり」について、Q14～Q19をお答えください。

Q14. お住いの地区、または自宅周辺に今後も住み続けるために各施設の必要性をお答えください。(それぞれ1つに○)

設問項目	必要性の判定	各施設の必要性					
		絶対必要	できるだけ必要	市内にあればよい	支障ない	なくても必要ない	まったく必要ない
1. 幼稚園・小中学校・高校などの教育施設		1	2	3	4	5	
2. 高齢者・子育てなどの福祉施設		1	2	3	4	5	
3. 会館やコミュニティセンター等の集会施設		1	2	3	4	5	
4. 公園や広場、緑豊かな緑地など		1	2	3	4	5	
5. 病院や診療所などの医療施設		1	2	3	4	5	
6. 銀行や郵便局などの金融施設		1	2	3	4	5	
7. コンビニ・日用品などの中小規模の商業施設		1	2	3	4	5	
8. スーパーやショッピングセンターなどの大型商業施設		1	2	3	4	5	
9. 理容院・美容院や飲食店などのサービス施設		1	2	3	4	5	
10. 身近なバス停		1	2	3	4	5	
11. 災害時の避難所・避難場所		1	2	3	4	5	

Q15. 今後の人口減少や高齢化を想定した場合、これからの「市街地のあり方」としてあなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

1. 歩いて暮らせる生活しやすい市街地を目指し、地域の状況に合わせたコンパクトなまち
2. 一人当たりの費用負担が増加しても現在の市街地規模を維持し、人口減少により発生した空き家・空き地を有効活用できるまち
3. 市街地の規模や構造にこだわらず、集客性の高い施設や定住促進のための新たな住宅地を積極的に整備していくまち
4. その他 ()

※ 富良野市では、令和22年までに6,000人近くの人口減少が予測されており、このまま進むと財政的な負担の増大により、公共サービスが維持できなくなるとともに、市街地の空洞化が深刻となり、各種の民間サービスが低下（縮小）する状況も懸念されています。

Q 16. 安全で利便性の高いコンパクトな市街地を目指していくなかで、もし市内での転居を考えるとしたら、どのような支援があると良いですか。(2つまで○)

1. 住宅購入費に対する支援
2. リフォームや増改築のための費用に対する支援
3. 賃貸住宅の家賃等に対する支援
4. 転居・転出に伴う費用に対する支援
5. 現在居住している住宅・土地の売却・除去等に対する支援
6. 空き家・空き地に関する情報提供
7. 住み替え先の地域に関する情報提供（子育て環境や介護・福祉施設の情報など）
8. 地域の公共交通（移動支援）に関する情報提供（運行情報や支援内容など）
9. どのような支援があっても住み替えない
10. その他（ ）

Q 17. それぞれの移動手段について、あなた自身が現在感じる重要性和、今後歳を重ねた先の将来に考える重要性をお答えください。(それぞれ1つに○)

重要度判定 設問項目	現在の重要度					将来の重要度				
	重要	やや重要	普通	重要でない	あまり重要でない	重要	やや重要	普通	重要でない	あまり重要でない
1. 自家用車による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 鉄道による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. バスによる移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. タクシーによる移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 徒歩による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 自転車による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q 18. 昨今、大雨洪水や地震などの自然災害により全国的に被害が頻発しています。このような状況に対して、あなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

1. 災害の危険性があるなら、安全なほかの地域に可能な限り引っ越しした方がよいと思う
2. 引っ越しは難しいため、自宅は見捨てることになっても避難を全力で行うべきだと思う
3. 引っ越しは難しいため、引っ越さなくても良いよう行政が対策を行う必要があると思う
4. 引っ越しは難しいため、災害に備えて地域で話し合い、事前に避難計画などを考えた方がよいと思う

※ウォーカブル：歩行空間を創出し、屋外で活動すること。また、屋外の活動を促進することで、健康と環境を維持することにつなげることを目指す考え。（第3次富良野市都市計画マスタープランより）

1. ウォーキングや体操など健康増進の場として活用
2. オープンカフェなどにぎわい創出の場としての活用
3. 交流の場となるイベント空間として活用
4. リラックスできるベンチなど休憩スペースとしての活用
5. 木々の植栽やまちなかの景観形成としての活用
6. 災害時に防災機能を発揮する場としての活用
7. 子どもたちの遊び場としての活用
8. その他（

Q20. その他、富良野市のまちづくりについて、ご意見等ありましたら、ご記入下さい。

[illegible]

- 6 -